

## 5. 教員の養成に係る授業科目【国際文化学部 子ども教育学科】

### ●幼稚園一種

| 免許法施行規則に定める科目区分等 |                        | 本学の開設科目   |  |
|------------------|------------------------|---|--|
| 教職に関する科目         | 教職の意義等に関する科目           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義及び教員の役割</li> <li>・教員の職務内容（研修、サービス及び身分保障等を含む。）</li> <li>・進路選択に資する各種の機会の提供等</li> </ul> | 教職概論   |
|                  | 教育の基礎理論に関する科目          | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想   | 教育原理   |
|                  |                        | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）  | 教育心理学  |
|                  |                        | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項   | 教育行政学  |
|                  | 教育課程及び指導法に関する科目        | ・教育課程の意義及び編成の方法   | 教育課程論（幼・小）   |
|                  |                        | ・保育内容の指導法   | 保育内容総論<br>人間関係指導法<br>環境指導法<br>健康指導法<br>言語指導法<br>音楽表現指導法<br>造形表現指導法 |
|                  |                        | ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）   | 教育方法の理論と実践（幼・小）  |
|                  | 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児理解の理論及び方法</li> <li>・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</li> </ul>                       | 教育相談（幼・小）  |
| 教育実習             |                        | 教育実習指導（幼・小）<br>教育実習（幼・小）  |  |
| 教職実践演習           |                        | 教職実践演習（幼・小・中）   |  |
| 教科に関する科目         | 国語                     | 教科国語  |  |
|                  | 算数                     | 教科算数  |  |
|                  | 生活                     | 教科生活  |  |
|                  | 音楽                     |   | 教科音楽   |
|                  |                        |   | ピアノ1   |
|                  |                        |   | ピアノ2   |
|                  |                        |   | 声楽1<br>声楽2   |
| 図画工作             | 教科図画工作                 |   |  |
| 体育               | 教科体育<br>子ども健康学         |   |  |
| 教科又は教職に関する科目     |                        | *最低修得単位を越えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」   |  |

●小学校一種

| 免許法施行規則に定める科目区分等            |                                     | 本学の開設科目  |            |
|-----------------------------|-------------------------------------|--|------------|
| 教職に関する科目                    | 教職の意義等に関する科目                        | ・教職の意義及び教員の役割  | 教職概論       |
|                             |                                     | ・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）                               |            |
|                             |                                     | ・進路選択に資する各種の機会の提供等                                       |            |
|                             | 教育の基礎理論に関する科目                       | ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想                                    | 教育原理       |
|                             |                                     | ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。） | 教育心理学      |
|                             |                                     | ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項                                    | 教育行政学      |
|                             | 教育課程及び指導法に関する科目                     | ・教育課程の意義及び編成の方法  | 教育課程論（幼・小） |
|                             |                                     | ・各教科の指導法   | 国語科教育法     |
|                             |                                     |  | 社会科教育法     |
|                             |                                     |  | 算数科教育法     |
|                             |                                     |  | 理科教育法      |
|                             | 生活科教育法                              |  |            |
|                             | 音楽科教育法                              |  |            |
|                             | 図画工作科教育法                            |  |            |
| 家庭科教育法                      |                                     |  |            |
| 体育科教育法                      |                                     |  |            |
| ・道徳の指導法                     | 道徳教育の理論と実践（小）                       |  |            |
| ・特別活動の指導法                   | 特別活動（小）                             |  |            |
| ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） | 教育方法の理論と実践（幼・小）                     |  |            |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目      | ・生徒指導の理論及び方法                        | 生徒・進路指導論（小）  |            |
|                             | ・進路指導の理論及び方法                        |  |            |
|                             | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | 教育相談（幼・小）  |            |
| 教育実習                        | 教育実習指導（幼・小）<br>教育実習（幼・小）            |  |            |
| 教職実践演習                      | 教職実践演習（幼・小・中）                       |  |            |
| 教科に関する科目                    | 国語（書写を含む。）                          | 教科国語   |            |
|                             | 社会                                  | 教科社会<br>世界の国々  |            |
|                             | 算数                                  | 教科算数   |            |
|                             | 理科                                  | 教科理科<br>理科実験演習   |            |
|                             | 生活                                  | 教科生活   |            |
|                             | 音楽                                  | 教科音楽   |            |
|                             |                                     | ピアノ1   |            |
|                             |                                     | ピアノ2   |            |
| 図画工作                        | 声楽1                                 |  |            |
|                             | 声楽2                                 |  |            |
| 図画工作                        | 教科図画工作                              |  |            |

|              |    |                |
|--------------|----|----------------|
|              | 家庭 | 教科家庭           |
|              | 体育 | 教科体育<br>子ども健康学 |
| 教科又は教職に関する科目 |    | 子ども英語教育法       |

●中学校一種（英語）

| 免許法施行規則に定める科目区分等       |                      | 本学の開設科目   |
|------------------------|----------------------|---|
| 教職に関する科目               | 教職の意義等に関する科目         | 教職概論  |
|                        |                      |   |
|                        |                      |   |
|                        | 教育の基礎理論に関する科目        | 教育原理  |
|                        |                      | 教育心理学   |
|                        |                      | 教育行政学   |
|                        | 教育課程及び指導法に関する科目      | 教育課程論（中）  |
|                        |                      | 英語科教育法 1<br>英語科教育法 2  |
|                        |                      | 道徳の指導法  |
|                        |                      | 特別活動（中）   |
| 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 |                      | 教育方法の理論と実践（中）   |
|                        |                      | 生徒・進路指導論（中）   |
|                        |                      | 教育相談（中）   |
| 教育実習                   | 教育実習指導（中）<br>教育実習（中） |   |
| 教職実践演習                 | 教職実践演習（幼・小・中）        |   |
| 教科に関する科目               | 英語学                  | 英語学概論<br>対照言語学  |
|                        | 英米文学                 | イギリス文学概論<br>アメリカ文学概論<br>児童文学論   |
|                        | 英語コミュニケーション          | 総合英語 1<br>総合英語 2<br>イングリッシュ・アクティビティ 1<br>イングリッシュ・アクティビティ 2<br>子ども英語演習 1<br>子ども英語演習 2<br>海外子ども教育研修<br>Selected Topics 1<br>Selected Topics 2 |

|              |   |
|--------------|---|
| 異文化理解        | 異文化間理解論<br>国際社会論<br>国際理解教育              |
| 教科又は教職に関する科目 | *最低修得単位を越えて履修した「教科に関する科目」若しくは「教職に関する科目」 |

●教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目

| 免許法施行規則に定める科目区分等 |              | 本学の開設科目          |
|------------------|--------------|------------------|
| 66 条の 6 に定める科目   | 日本国憲法        | 日本国憲法            |
|                  | 体育           | 体育実技 1<br>体育実技 2 |
|                  | 外国語コミュニケーション | 英語会話 1<br>英語会話 2 |
|                  | 情報機器の操作      | 情報演習 1<br>情報演習 2 |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教職に関する科目（幼稚園一種）

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教職概論（幼稚園）  |      |    |
| 教員名   | 上中 ひろ子   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に関する理解を深めることができる。</li> <li>・教職に必要な基本的な知識と見識を身につけ教育的課題に真摯に関心をもち論じ合うことができる。</li> <li>・幼稚園における保育のプログラムの立案ができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>教職の意義や教員の役割、職務内容などに関する知識を修得することを通して、学生が教職について理解を深めることを目的とする。具体的には、教員の地位・身分、教員の職務内容、教員に求められる資質と能力、現在の学校教育問題、学校の管理・運営、教員研修、教員の養成と採用などの多角的な内容について概観することによって、教職の動機付けを図る。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 オリエンテーション（講義の目的・講義方法・評価法等）<br/> 第2回 働く目的と保育哲学（保育所・幼稚園の資格と職務の特徴）<br/> 《指導要領と保育指針》<br/> 第3回 先生とは（教員免状について）解説する。<br/> 第4回 園での教師・保育士の役割と信頼について解説する。<br/> 第5回 教師・保育士の仕事と留意点解説する。<br/> 第6回 教育現場が求めている教師像を討議し解説する。<br/> 第7回 教育法規とサービスについて解説する。<br/> 第8回 子どもの問題行動と指導の在り方について討議し解説する。<br/> 第9回 子ども理解を解説する。（堺市人権ふれあいセンターに於いて）<br/> 第10回 人権教育について解説する。（同上）<br/> 第11回 堺市人権ふれあいセンターで実習する。（同上）<br/> 第12回 プロとしての教師・保育士の資質（エコグラムを行う）<br/> 第13回 中間考査と解答<br/> 第14回 指導計画の考え方と指導案の書き方<br/> 第15回 指導案作成</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とし、グループ討議と発表。絵本と手遊びの発表を行う。   |      |    |
| 授業外学習 | 絵本・手遊びの下調べと発表に向けての練習をする。<br>毎回レビューシートを提出する。  |      |    |
| 教科書   | 幼稚園教育要領 保育指針   |      |    |
| 参考書   | 毎回プリントを配布する。   |      |    |
| 評価方法  | テスト 50% レビューシート 30% 絵本・手遊び発表10%<br>授業への参加度10%（グループ討議への理論的、積極的発言と行動）  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育原理  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 幼稚園・小学校教員をめざす学生に必要な資質・能力のうち次の2点について育成する。<br>(1) 教育の理念・教育史・教育思想の基礎的知識を習得する。<br>(2) 現在の教育問題の背景を幅広い視点から考えられるようになる。   |      |    |
| 授業概要  | 「教育とは何か」という問いについて考える。それは「人間にとって教育は必要か」と問うことでもある。授業の終わりには、「学校教育は必要か」という問いに受講生が答えることができるようになることをめざす。<br>考える手立てとして、次の2つの方法をとる。<br>(1) 西洋と日本の教育思想を学ぶ。<br>(2) 授業外課題として、新聞の切り抜き記事にもとづくコメント作成をおこなう。<br>新明解国語辞典(三省堂)によるなら、「原理」とは「多くの物事がそれによって説明することができると考えられる根本的な理論」のことである。各  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション<br>第02回 人間に教育は必要か；カントとポルトマンを中心に<br>第03回 西洋教育史(古代)：ソクラテスとプラトンの教育思想<br>第04回 西洋教育史(中世)：中世の教育と大学の発生<br>第05回 西洋教育史(近世)：ルターとコメニウスの教育思想<br>第06回 西洋教育史(近代)：ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想<br>第07回 西洋教育史(近代)：近代公教育の成立と民衆教育<br>第08回 西洋教育史(現代)：新教育と現代の教育<br>第09回 日本教育史(近世)：近世の教育と教育思想<br>第10回 日本教育史(近代)：学制の成立から国家主義の時代へ<br>第11回 日本教育史(現代)；戦後教育と教育改革<br>第12回 学校を取り巻く環境の変化と教育<br>第13回 子育てと家庭・地域<br>第14回 グローバリズムと教育<br>第15回 まとめ：人間と教育 |      |    |
| 授業方法  | ペアやグループによるディスカッション、発表等の言語活動をふくむ演習的な方法を随時とり入れた講義。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業配布プリントについて定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(2) 教科書について定期的にレポート課題を示す。締切までにレポートを提出すること。<br>(3) 教科書について定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(4) 「新聞レポート」を自由課題とする。新聞の教育関係記事を読み、切り抜いて貼り、要旨とコメントを書いて提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養Ⅰ教育原理・教育史』七賢出版   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文(3×15回=45%)＋定期小テスト(30%)＋レポート(25%)<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育心理学  |      |    |
| 教員名   | 永井 明子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員にとって必要な教育心理学の知識を得る</li> <li>・具体的な事例を知ることにより教員志望の意欲を高める</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：オリエンテーション<br/> 第2回：人間発達の理解（1）－発達とは何か・原理・規定因－<br/> 第3回：人間発達の理解（2）－発達理論－<br/> 第4回：乳・幼児期の理解－乳・幼児期の心理－<br/> 第5回：児童期・青年期の理解－身体・知能・言語・社会性・人格の発達－<br/> 第6回：学習の理解（1）－学習とは何か・成立過程－<br/> 第7回：学習の理解（2）－学習成立の条件－<br/> 第8回：学習成果の保持と転移－記憶とは何か・忘却のメカニズム－<br/> 第9回：授業の心理－理論・形態・最適化－<br/> 第10回：教育評価の方法－視点・目的と時期・学力テスト・知能テスト－<br/> 第11回：教育データの収集と分析－方法・教育統計－<br/> 第12回：学校適応－いじめ・不登校・人間関係－<br/> 第13回：発達障害（1）－知的障害・自閉症・高機能広汎性発達障害－<br/> 第14回：発達障害（2）－学習障害・注意欠陥・多動性障害－<br/> 第15回：まとめ<br/> 期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | グループディスカッション・簡単な実験等も取り入れる。   |      |    |
| 授業外学習 | <p>①授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やボランティア・インターンシップ等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。</p> <p>②新聞から教育や発達に関する記事を選びコピーし、内容を要約した上でコメントしたものを提出。</p> <p>③授業の範囲を予習し、予習ノートを作ったものを提出。</p>  |      |    |
| 教科書   | 西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』ナカニシヤ出版   |      |    |
| 参考書   | 東京アカデミー 教職教養Ⅱ 『教育心理学』<br>サイエンス社 心理学ベーシックライブラリ 5-I 『教育心理学Ⅰ：発達と学習』   |      |    |
| 評価方法  | ミニレポート 50%・期末試験 50%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育行政学  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1) 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論や基礎知識を習得できる。<br>(2) 教育行政の仕組みや教育法規を現実の状況と関係させて理解することができる。   |      |    |
| 授業概要  | この授業は、学校教育の社会的・制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本が的確に理解できるようにするほか、特に憲法、教育基本法、学校教育法等について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業を行う。  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション；教育行政学とは何を学ぶのか<br>第02回 法と行政についての基礎<br>第03回 教育法規の体系と日本国憲法<br>第04回 教育基本法その1（教育の目的関連）／定期小テスト1<br>第05回 教育基本法その2（教育行政関連）<br>第06回 教育行政における現代的課題<br>第07回 学校に関する法規と学校経営<br>第08回 学校教育に関する法規その1（学校教育法関連）／定期小テスト2<br>第09回 学校教育に関する法規その2（学校教育法施行規則関連）<br>第10回 児童・生徒・子どもに関する法規その1（「子どもの権利」関連）<br>第11回 児童・生徒・子どもに関する法規その2（児童福祉法ほか）<br>第12回 教職員に関わる法規その1（教育公務員特例法ほか）／定期小テスト3<br>第13回 教職員に関わる法規その2（教育職員免許法ほか）<br>第14回 教育委員会<br>第15回 社会教育・家庭教育と教育行政／定期小テスト4 |      |    |
| 授業方法  | 講義を中心に行う。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書（学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト）、授業で配布する補助プリント等を学習すること。<br>(2) 定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養Ⅱ教育心理学 教育法規』七賢出版  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介します。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文（3%×15回＝45%）＋定期小テスト（30%）＋レポート（25%）<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育課程論(幼・小) (B12・B13) / 教育課程論 (B10・B11)   |      |    |
| 教員名   | 長尾 彰夫  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校の教育課程に関する基本的概念を理解できる。</li> <li>・教育課程の対象方法を説明できる。</li> <li>・学習指導要領に従い教育課程の編成を試みる事が出来る。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程 (カリキュラム) とは何かについての原理的な説明をする。</li> <li>・教育課程の原理と原則について解説する。</li> <li>・教育課程の基準である学習指導要領の特徴について説明する。</li> <li>・各学校の教育課程編成の具体的なプランの作成を試みる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーション (授業の目標と形態、評価方法について)<br>第2回 教育課程とは何か、その歴史について<br>第3回 教育課程とカリキュラムの違いについて<br>第4回 教育課程編成の基本的視点 (その1) 学問の系統性<br>第5回 教育課程編成の基本的視点 (その2) 子どもの発達段階<br>第6回 教育課程編成の基本的視点 (その3) 社会の教育的要請<br>第7回 中間まとめとディスカッション<br>第8回 教育課程編成と学習指導要領の関係性<br>第9回 学習指導要領の歴史の変遷<br>第10回 現行の学習指導要領の特徴<br>第11回 学習指導要領の総則について<br>第12回 各教科の目標と内容について<br>第13回 各学校における教育課程編成上の課題について<br>第14回 学校における教育課程編成を試みる<br>第15回 まとめディスカッション |      |    |
| 授業方法  | 講義形態を基本としつつもなるだけ質問、ディスカッションの機会を設ける。  |      |    |
| 授業外学習 | 学校インターンの経験などを適宜レポートさせる。<br>教育課程編成や学習指導要領関連の新聞記事などを収集させる。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説・総則編  |      |    |
| 参考書   | 特に指定しない。   |      |    |
| 評価方法  | 授業中に適宜実施する試験50% 授業中の小レポート30% 授業参加度20%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育方法の理論と実践（幼・小）（B12・B13）／（教育方法の研究）（B10・B11）   |      |    |
| 教員名   | 野崎 康夫   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>(1) 多数ある教育技術の中から最も自身の指導に適したものを選ぶことができるように基礎的な教育方法の理論・知識を習得する。</p> <p>(2) 具体的な実習を通して、子どもが学習していくための道筋を明らかにし、それらを評価できる基本的教育観点を身に付ける。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>教材文の読み取り、樹木図鑑の作成、絵本の読み聞かせの工夫、タグラグビーの実習などを通して、ベーシックな教育理論を考える。同時にそれらの教育実践が、どのような教育理論によって裏打ちされているのかをクラス討議や小論文作成を行いながら考える。さらに、授業を進めていく上で必要と思われる情報機器の利用や情報の活用方法等についても学ぶ。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 はじめにー授業の見取り図の説明と教科書の利用の仕方ー</p> <p>第2回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える (1) 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第3回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える (2) 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第4回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える (3) 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第5回 ルールの役割とは何か (1) 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第6回 ルールの役割とは何か (2) 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第7回 ルールの役割とは何か (3) 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第8回 「分けること」の意味を考える (1) 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第9回 「分けること」の意味を考える (2) 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第10回 「分けること」の意味を考える (3) 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第11回 表現することの意味 (1) 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第12回 表現することの意味 (2) 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第13回 表現することの意味 (3) 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第14回 教育とは何か (1) 映画『ブタがいた教室』を手がかりに</p> <p>第15回 教育とは何か (2) 映画『ブタがいた教室』を手がかりに</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義とグループ活動（グループ討論やグループでの製作を含む）   |      |    |
| 授業外学習 | 授業で指示した教科書の個所を必ず事前に読む   |      |    |
| 教科書   | 『教育「疑術」論』野崎康夫(著) アドバンテージサーバー  |      |    |
| 参考書   | 小学校学習指導要領 総則編   |      |    |
| 評価方法  | テーマ毎の小レポート及び作品提出50% 最終レポート50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 保育内容総論  |      |    |
| 教員名   | 早瀬 眞喜子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における幼稚園・保育所の役割, , 乳幼児教育に対する理解や知識を深める</li> <li>・保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。</li> <li>・保育所保育指針や幼稚園教育要領の5領域が一体的に展開することを具体的な実践につなげて理解する。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>「保育とは何か」、保育内容と子ども理解を深め、「幼稚園教育要領」[保育所保育指針]に基づいて学ぶ。5 領域（健康、人間関係、環境、言語、表現）の領域の学びとともに、総合的にとらえる視点や保育内容を構造的に理解する。乳幼児の生活、遊びの発達段階を踏まえ、保育所、幼稚園での具体的な活動を学ぶ。</p> <p>また、具体的な実践がイメージできるように、事例検討や保育記録、計画作成などもおこなう。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1、保育の基本と保育内容について(保育内容を総論としてとらえる)</li> <li>2、幼稚園教育要領、保育所保育指針と5領域について</li> <li>3、保育内容の歴史的変遷について</li> <li>4、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領について</li> <li>5～9 保育内容と子ども理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 3 歳児の発達と保育内容</li> <li>(2) 4 歳児の発達と保育内容</li> <li>(3) 5 歳児の発達と保育内容</li> <li>(4) 小学校との連携、接続について</li> <li>(5) 異年齢における保育</li> </ol> </li> <li>10、主体的な活動としての遊び</li> <li>11、保護者支援、地域支援について</li> <li>12、保育課程、指導計画について</li> <li>13、保育記録・評価について</li> <li>14、現代の保育課題と保育内容</li> <li>15、まとめ</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | <p>教科書やレジュメをもとに、幼稚園、保育所での実態・事例等を講義し、ディスカッションを行うなど主体的に学べるようにする。</p> <p>レポートや小テストを行い、その都度学びを確認する。</p>   |      |    |
| 授業外学習 | 予習として教科書の該当する章を事前に読んでおく。  |      |    |
| 教科書   | <p>新保育ライブリ「保育内容総論」 民秋 言・狐塚和江・佐藤直之編著、北大路書房</p> <p>「保育所保育指針」 厚生労働省 フレーベル館</p> <p>「幼稚園教育要領」 文部科学省 フレーベル館</p> <p>「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」 フレーベル館</p>  |      |    |
| 参考書   | MINERVA 保育実践学講座「保育内容総論」4  |      |    |
| 評価方法  | <p>出席、小テスト (40%)</p> <p>レポート (60%)</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 人間関係指導法   |      |    |
| 教員名   | 椎葉 正和   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 子どもとその環境としての「人間関係」の重要性を理解する。<br>「人間関係」の育ちに、保育者としてどう関わるのかを深く考察する。  |      |    |
| 授業概要  | 現代社会における教育・保育の領域「人間関係」の基本的な考え方を理解した上で、子どもにとっての「人間関係」の重要性を知る。子どもの様々な側面から、「人間関係」指導のあり様を学んで、最後に保育者の専門性としてのコミュニケーション・スキルの足がかりをつかむ。  |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーション、授業内容と評価の説明など。<br>第2回 現代社会における「人間関係」。<br>第3回 幼稚園教育要領における領域「人間関係」。<br>第4回 保育所保育指針における領域「人間関係」。<br>第5回 認定子ども園教育・保育要領における領域「人間関係」。中間まとめ(1)。ここまでの小テスト(1)<br>第6回 「人間関係」と子どもの発達。<br>第7回 子どもの生活と「人間関係」。<br>第8回 子どもの遊びと「人間関係」。<br>第9回 保育者、おとなの「人間関係」。<br>第10回 クラス集団づくりと「人間関係」。中間まとめ(2)、小テスト(2)<br>第11回 コミュニケーション・スキル<br>第12回 道徳、人権保育とコミュニケーション。<br>第13回 コミュニケーション障害と共生保育。<br>第14回 コンフリクトと対人コミュニケーション。<br>第15回 最終まとめと「授業内テスト」 |      |    |
| 授業方法  | 講義形式の中で、グループ・ディスカッションや発表をしてもらう。毎回「コミュニケーション・カード」を提出する。  |      |    |
| 授業外学習 | 参考書は、よく読んでおくこと。適時、課題を出すので、次の授業までに自分の意見をまとめる。  |      |    |
| 教科書   | 適時、レジюмеや資料を配布するので、ファイルして毎回授業に持ってくる。  |      |    |
| 参考書   | 『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針(原本)』チャイルド本社 2014年 ISBN978-4805402283  |      |    |
| 評価方法  | 授業内テスト60%、小レポートと小テスト25%、コミュニケーション・カード15%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 環境指導法   |      |    |
| 教員名   | 永淵 泰一郎  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  |   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>保育現場で必要とされている環境構成についての概要を学び、実践例を通して学びを深めることで保育者としての視座を養う。</p> <p>保育における環境領域についての基本を理解し、人的環境として大切な保育者の役割を理解し、自分自身が目標とする保育者像がイメージできるようになる。</p>   |      |    |
| 授業概要  | <p>領域「環境」の基本的な考え方を知り、「環境」をどのように構成していくことが、子どもの育ちにとって必要であるかを学ぶ。前半では領域「環境」の基本的な考え方を学び、後半では保育実践例を通して学ぶことで、多角的な視点を養い、保育者に求められる役割や専門性についても学びを深めたい</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2回：幼児教育における「環境」とは</p> <p>第3回：幼児を取り巻く環境の現状</p> <p>第4回：自然体験</p> <p>第5回：自然を生かした地域との交流</p> <p>第6回：生き物の導入</p> <p>第7回：人的な環境としての保育者の役割</p> <p>第8回：物的な環境としての遊具や園具</p> <p>第9回：身近な素材の活用（レジャョ・エミリア）</p> <p>第10回：環境を通して行なう教育の意義について</p> <p>第11回：子どもを守る安全な環境（発達の時期に即した環境）</p> <p>第12回：保育実践例1 3歳児クラス環境構成</p> <p>第13回：保育実践例2 4歳児クラス環境構成</p> <p>第14回：保育実践例3 5歳児クラス環境構成</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義, 演習  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習として教科書の該当する章を、事前に読んでおく。</li> <li>・課題発表に向けての準備、レジュメ作成</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | 高内正子監修、上中修編著『保育実践に生かす保育内容「環境」』保育出版社 2014年   |      |    |
| 参考書   | 『保育所保育指針』<br>『幼稚園教育要領』  |      |    |
| 評価方法  | 期末試験 60%、課題提出 20%、授業への参加度（学習態度等） 20 %   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 健康指導法  |      |    |
| 教員名   | 内藤 真希  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 1. 幼児期の健康について、成長発達に応じた理解ができる。<br>2. 年齢に応じた遊びや運動を考えることができる。<br>3. 安全教育への実際について習得している。   |      |    |
| 授業概要  | はじめに健康の概念を明らかにし、幼児期の健康について「幼稚園教育要領」の領域「健康」に基づき、その意義やねらい、内容を具体的に学ぶ。幼児期に生きる力の基本となる生活習慣を身につけることの大切さを理解し、そのために必要な援助の方法を習得する。遊びは心身の健康的な発達をもたらす、健康は充実した主体的活動の基となるという連関のなかで、幼児の成長発達が成し遂げられていくことを理解する。年齢に応じた遊び方、保育と安全教育について、保育の現場での事例研究に基づいて学ぶ。  |      |    |
| 授業計画  | 第1回：オリエンテーション 健康の定義、領域「健康」について<br>第2回：子どもの健康に関する現状把握<br>第3回：子どもの体と健康：形態、運動能力、生理機能の発達<br>第4回：食育について<br>第5回：生活習慣の確立と自立<br>第6回：遊びの意義<br>第7回：保育所、幼稚園における環境設定について<br>第8回：いろいろな運動遊びⅠ<br>第9回：いろいろな運動遊びⅡ<br>第10回：いろいろな運動遊びⅢ<br>第11回：子どもの病気・けがと応急処置<br>第12回：安全教育について<br>第13回：自然教育と心身の健康<br>第14回：「健康」の現代社会における今日的課題<br>第15回：ふりかえりとまとめ<br>第16回：期末試験 |      |    |
| 授業方法  | 講義と演習  |      |    |
| 授業外学習 | ・予習として教科書の該当する章を、事前に読んでおく。<br>・課題発表に向けての準備、レジュメ作成  |      |    |
| 教科書   | 無藤 隆 監修『事例で学ぶ保育内容 領域 健康』 萌文書林  |      |    |
| 参考書   | 『保育所保育指針』<br>『幼稚園教育要領』   |      |    |
| 評価方法  | 期末試験60%、課題提出20%、授業への参加度（学習態度等）20%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 言語指導法   |      |    |
| 教員名   | 生駒 幸子   |      |    |
| 授業種別  | 集中授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  |   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容「言葉」を理解する。</li> <li>2. 乳幼児期の言葉の発達過程を正しく理解する。</li> <li>3. 子どもの言葉を豊かに育てる指導・援助の方法を学び、保育の活動・環境をデザインできる実践力を獲得する。</li> </ol>   |      |    |
| 授業概要  | <p>保育内容「言葉」の目標、乳幼児期の言葉の発達過程を理解を深める。そのうえで子どもたちが自分の経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話すことを聞こうとする意欲や態度を育てるための援助・指導の方法を学ぶ。言葉を豊かに育てる児童文化財・遊びの知識、また保育環境をデザインする実践力を獲得する。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション「子どもの言葉とは何か」</li> <li>2. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育内容「言葉」の取り扱いとの歴史の変遷</li> <li>3. 保育内容「言葉」の目標</li> <li>4. 言葉の発達と指導・援助の方法 (1) 乳児期 (言葉以前の言葉)</li> <li>5. 言葉を豊かに育む児童文化財・遊び (1) わらべうた・てあそび</li> <li>7. 言葉の発達と指導・援助の方法 (2) 幼児期 (3 歳児)</li> <li>8. 言葉の発達と指導・援助の方法 (4) 幼児期 (4 歳児)</li> <li>9. 言葉の発達と指導・援助の方法 (5) 幼児期 (5.6 歳児)</li> <li>10. 話し言葉から書き言葉への育ち (幼児期のリテラシーと小学校教育への接続)</li> <li>11. 言葉の育ちにまつわる諸問題と保育者の役割</li> <li>12. 言葉を豊かに育む児童文化財・遊び (2) 絵本</li> <li>13. 言葉を豊かに育む児童文化財・遊び (3) おはなし・幼年文学</li> <li>14. 言葉を豊かに育む児童文化財・遊び (4) 紙芝居・シアター型児童文化財</li> <li>15. 学習のまとめ</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | <p>保育内容「言葉」の目標を保育のなかでどのように達成していくのか、子どもたちの遊びの姿や保育者指導法の事例を紹介、解説する。視聴覚教材を活用し、実際の子どもの言葉の育ちイメージしながら授業をすすめる。少人数グループによる保育教材の制作、実践 (模擬保育) の学修を取り入れる。</p>  |      |    |
| 授業外学習 | <p>授業の予習・復習や、課題レポート、小テスト対策等は授業時に提示する。</p>   |      |    |
| 教科書   | <p>川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著『ことばと表現力を育む児童文化』(萌文書林 2013 年)</p>  |      |    |
| 参考書   | <p>小田豊・芦田宏編著『保育内容 言葉』(北大路書房・2009 年改訂版)<br/> 岡本夏木『子どもとことば』(岩波書店)<br/> 今井和子『表現する楽しさを育てる 保育実践・言葉と文字の教育』(小学館)</p>   |      |    |
| 評価方法  | <p>授業への参加度 30%、課題 (ミニレポート・小テスト・グループワークなど) 40%、科目終末レポート or テスト 30%<br/> 授業への積極的参加態度 (出席だけではない)、課題への取り組み姿勢等も含め、上記の割合で総合的に評価する。</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 音楽表現指導法  |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちのさまざまな音楽表現の方法を体験することによって、リズム感や音楽性を高めることができる。</li> <li>・幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づき、子どもたちの発達段階に応じた音楽表現指導法を考え、実践指導ができるようになる。</li> <li>・音楽表現指導の指導案・保育案を立案できる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | 子どもたちが自然や家庭などとの人間的コミュニケーションの中で、心に感じたことをどのように音楽で表すか、その表現方法を実際に体験する。さらに、声を出して自然に歌う、何かをたたいて音を出してみる、さらに自分だけでなく相手と表現をしたときの喜びを経験する、これらの経験を積み重ねて楽曲を演奏する、というそれぞれの過程における指導法を、子どもの発達を踏まえ解説する。これらを理解したうえで、指導案・保育案を作成し、模擬保育を通して実践的な音楽表現指導の内容・方法を検証する。  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション<br>第02回 子どもと音楽との関わり（1）子どもの表現について<br>第03回 子どもと音楽との関わり（2）子どもの心身の発達と音楽的発達<br>第04回 幼稚園教育要領・保育所保育指針における音楽表現指導について<br>第05回 遊びと音楽（1）童謡と唱歌の教材研究<br>第06回 遊びと音楽（2）指遊び手遊びの教材研究<br>第07回 遊びと音楽（3）身体遊びの教材研究<br>第08回 遊びと音楽（4）リトミックの教材研究<br>第09回 音楽劇の創作（1）発表準備<br>第10回 音楽劇の創作（2）発表<br>第11回 音楽表現における指導者の役割（1）指導計画・指導案の作成<br>第12回 音楽表現における指導者の役割（2）指導計画・指導案の作成<br>第13回 音楽表現における指導者の役割（3）模擬保育を通じた指導方法の検討<br>第14回 音楽表現における指導者の役割（4）模擬保育を通じた指導方法の検討<br>第15回 保幼・小連携としての音楽表現指導の現状と課題 |      |    |
| 授業方法  | 講義と演習  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で取上げる音楽表現指導法の理論と実践を復習しておくこと。</li> <li>・具体的な音楽表現指導法についてレポーターを増やし、自作の音楽表現指導教材を作成すること。</li> <li>・音楽表現指導の指導案を作成し提出すること。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2013<br>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2013<br>内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2014   |      |    |
| 参考書   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・柴田礼子 『音楽指導ブック 子どものための たのしい音遊び 伝え合い、表現する力を育む』 音楽之友社 2009</li> <li>・島津 多美子 『いつもの手あそびをもっと楽しく：子どもが好きな手遊びで一年中遊び通そう！』 ひかりのくに 2013</li> </ul>   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業レポート 30%・指導案 30%、授業へ参加度 40%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 造形表現指導法   |      |    |
| 教員名   | 上田 慎二   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <p>○幼稚園教育要領に示された領域の目標とねらい及び内容を理解し、幼児の実態に応じた造形表現活動を指導するために必要な教材化の視点と具体的な支援方法が身につく。</p> <p>○造形表現活動及び模擬保育を通して、保育における子どもの見取りや評価、支援の実践力が身につく。</p> <p>○上記の内容について、保育実践を想定して、保育案（題材設定の理由、目標の設定、計画、環境構成と準備物、子どもの活動、保育者の援助上の留意点など）に具体化できる力が身につく。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>「幼稚園教育要領」には、幼児の主体的な活動を促すことがあげられている。保育における乳幼児の表現活動の姿をビデオ等資料により観察しながら、実際の具体的な援助方法を探る。乳幼児の表現における発達過程、遊びの考察、コミュニケーションとして遊びについても考える。また保育案を多数紹介しながら、追体験して表現する感覚をつかむ。実際に子どもと接する時に役に立つ絵画と造形教材を使って子どもの感性を育て、イメージを広げるための援助方法を考える。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：保育指針や教育要領における表現、造形表現の意味について</p> <p>第2回：子どもの造形表現の育ち（発達過程）の特性について</p> <p>第3回：子どもと保育者の立場からの保育の構成要素について</p> <p>第4回：子どもの特性からの保育の構成要素について</p> <p>第5回：環境設定からの保育の構成要素について</p> <p>第6回：材料・用具、技法の特性を生かした保育と実際</p> <p>第7回：幼児の絵画活動からの読み取りについて</p> <p>第8回：平面表現を主にした保育と実際1</p> <p>第9回：平面表現を主にした保育と実際2</p> <p>第10回：年齢による造形活動とその方法について</p> <p>第11回：立体表現を主にした保育と実際1</p> <p>第12回：立体表現に主にした保育と実際2</p> <p>第13回：みること（鑑賞）を主にした保育と実際</p> <p>第14回：共同製作や壁面構成の工夫</p> <p>第15回：講義全体のまとめとふりかえり</p> |      |    |
| 授業方法  | 演習を取り入れた講義形式  |      |    |
| 授業外学習 | 教科書について事前学習を求める。また、講義で取り扱った参考文献についてのレポートや製作作品の提出がある。内容によっては、時間を要する課題もある為計画的に取り組むようにしよう。   |      |    |
| 教科書   | 『新造形表現（理論・実践編）』三晃書房 花篤 實 岡田?吾 編著 2009   |      |    |
| 参考書   |   |      |    |
| 評価方法  | <p>講義ごとの内容をまとめた学習記録を評価の対象物とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義ごとの内容のまとめおよび配布資料</li> <li>・教材研究や製作作品の記録</li> <li>・保育案の作成</li> </ul> <p>授業への参加度（授業態度等）（50％） 提出物（50％）</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育相談 (幼・小) (B12・B13) / 教育相談 (B10・B11)  |      |    |
| 教員名   | 中村 健   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の意義がわかる</li> <li>・自己・他者理解及びその交互作用をカウンセリング技法から学び、用いることができる</li> <li>・基礎・基本的な教育相談の実践を行うことができる</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>今日の学校教育臨床では、教師相互はもとより、保護者やスクールカウンセラーをはじめとする専門家・地域の人々等とかかわり合い、つながり合って、子どもの成長を育み、指導・援助していくことが求められている。</p> <p>そこでこの授業ではまず、学校教育相談における予防的・開発的・治療的教育相談について概説した上で、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ。</p> <p>そして、いじめ・不登校等のいわゆる不適応事象のみでなく、日常的な学校教育場面での学習面、心理・社会面、進路面、健康面にかかわる事象に関する事例やスクールカウンセラーとの連携、チーム援助活動の実際例を通して、教師に求められるカウンセリングを生かした学校教育相談活動について理解する。また、そのために必要とされるチーム援助の実際などを体験的に学びながら実践力を養う。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ー学校教育相談とはー</li> <li>2. 構成的グループ・エンカウンターと関係づくり</li> <li>3. 学校教育相談の領域</li> <li>4. 予防・開発的学校教育相談と治療的教育相談</li> <li>5. 指導と援助について</li> <li>6. 子ども・保護者理解について</li> <li>7. 子ども・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法1 ー「聞く」と「聴く」ー</li> <li>8. 子ども・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法2 ー「聴く」と「訊く」ー</li> <li>9. ブリーフ・セラピーの活用</li> <li>10. 学校内外での連携と協働</li> <li>11. コンサルテーションとコーディネーション</li> <li>12. 教育臨床場面でのチーム支援の実際</li> <li>13. 日米のスクールカウンセリング活動の相違</li> <li>14. 教師とスクールカウンセラーの関係</li> <li>15. まとめと課題・授業内テスト</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 講義のみでなく、ソーシャル・スキル・トレーニング、構成的グループ・エンカウンター、ブリーフ・セラピー等の実習も行う。   |      |    |
| 授業外学習 | 毎回、授業の振り返りや予習課題等を指示する  |      |    |
| 教科書   | 伊藤美奈子・春日井敏之編著 中村健 他著「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房 2011   |      |    |
| 参考書   | 講義中、適宜紹介する   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 25%・講義中のミニレポート 25%・テスト 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育実習指導 (幼・小)  |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二 松久 眞実 山本 景一 (小学校)   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫することができる。</li> <li>・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。</li> <li>・教育実習に関する事務的な流れを理解することができる。</li> <li>・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告することができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>事前：教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。</p> <p>自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の子ども観や授業への考え方を深める。また、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実も図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>事後：報告書の作成と体験発表を行う。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 教育実習の意義と目的</p> <p>第2回 学校全体の教育活動の概観</p> <p>第3回 教職員の職務の概観</p> <p>第4回 教育実習の具体的な内容と指導教員の役割</p> <p>第5・6・7回 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導 (その1)</p> <p>第8・9・10回 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導 (その2)</p> <p>第11回 学級集団の形成と規律ある学級経営についての理解</p> <p>第12回 生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回 教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14・15回 教育実習に関する事務的な説明およびその習得</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義、模擬授業の実施とその指導   |      |    |
| 授業外学習 | 学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集  |      |    |
| 教科書   | なし  |      |    |
| 参考書   | なし  |      |    |
| 評価方法  | 学習指導案と模擬授業の参加度 (40%)、実習に臨む姿勢や学習成果の整理 (30%)、授業への参加度 (30%)  |      |    |
| 既修条件  | 履修の手引きの「教育職員免許状について」に記載   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教職実践演習 (幼・小・中)   |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子 (幼稚園)  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 4  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <p>・今までに履修した教科に関する科目・教職に関する科目やさまざまな活動を通して身につけた資質能力が、実践現場で幼稚園教員・保育士としていかに生かされていくのか、知識・能力・実践的指導力がいかに身についてきたか、最終的に確認することができる。</p> <p>・幼稚園教員志望者として、自己の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、実践的指導力を身につけることができる。</p>  |      |    |
| 授業概要  | 教職課程履修カルテを基に自己評価し、自己課題を明確にする。幼稚園教員としての使命や子どもへの責任の理解、子どもの発達や心身の理解、クラス経営、保育・教育の専門知識と保育の指導法、地域や他校種との連携について、グループ討議・事例研究・模擬保育を通して学ぶ。  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 「教職実践演習」の目的、意義、授業進行の説明<br>第02回 「教職課程履修カルテ」に基づく教育実践力の自己評価<br>第03回 子どもの発達・心身の状況理解<br>第04回 幼稚園と家庭・保護者及び地域との連携<br>第05回 他校種(保育所・小学校)との連携<br>第06回 教職員の協働<br>第07回 特別支援教育への理解<br>第08回 育てたい子ども像とクラス経営<br>第09回 実践現場の調査<br>第10回 実践現場を基にした発表<br>第11回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育<br>第12回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育<br>第13回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育<br>第14回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育<br>第15回 まとめと教育実践力の自己最終評価 |      |    |
| 授業方法  | 講義・グループ討議・事例研究・模擬保育等を取り入れ展開する。   |      |    |
| 授業外学習 | ・毎回の授業テーマについて、自分自身の考えを整理しておくこと。<br>・毎回の授業内容とディスカッションの内容に関する考察をレポートとして提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2013<br>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2013<br>内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2014   |      |    |
| 参考書   | 増田まゆみ・夜藤誠慈郎 『ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習』 建帛社 2014   |      |    |
| 評価方法  | 発表(模擬保育・実践現場報告など)(40%)、保育指導案・事例研究・授業課題の考察レポート(40%)、授業への参加態度(20%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教科に関する科目（幼稚園一種）

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科国語  |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 教科国語の内容と構造を理解し、学習指導の基本的事項を身に付けることができる。  |      |    |
| 授業概要  | <p>小学校国語の目的とその意義を理解することを目的としている。特に、小学校学習指導要領国語科（文部科学省作成）をもとに内容を解説し、書写を含む小学校国語教科書の構成を理解する。</p> <p>（1）話すこと、聞くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についての内容の構成や学年に応じた配置と意図の理解、（2）文学的作品や説明的文章の基本的構造および表現方法の理解、（3）基礎的語彙の習得や正しい文字の表記法、整った文字の記述等を学習する。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第 1 回 国語科学習指導要領を解説し、理解を図る。</p> <p>第 2 回 国語科学習指導要領の内容の定着を図る。</p> <p>第 3 回 国語科教科書の「話すこと・聞くこと」の系統を理解する。</p> <p>第 4 回 国語科教科書の「書くこと」の系統を理解する。</p> <p>第 5 回 国語科教科書の「読むこと」の系統を理解する。</p> <p>第 6 回 国語科教科書の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の系統を理解する。</p> <p>第 7 回 小学校低学年の「読むこと」説明的文章教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 8 回 小学校低学年の「読むこと」文学作品教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 9 回 小学校高学年の「読むこと」説明的文章教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 10 回 小学校高学年の「読むこと」文学作品教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 11 回 小学校低・中・高学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 12 回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動 1 を行う。</p> <p>第 13 回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動 2 を行う。</p> <p>第 14 回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動を行う。</p> <p>第 15 回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動を行う。</p> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義と討論、参加型アクティビティ  |      |    |
| 授業外学習 | ワークシートの記入や言語活動を行うので、その予習をする。<br>単元観を書くので、提示した教科書や教材をよく読んでおく。<br>文字を正しく整えて書く練習をする。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説「国語編」  |      |    |
| 参考書   | 必要に応じて関連プリントを配布する。  |      |    |
| 評価方法  | 試験（40%）、単元観などの提出物（30%）、授業への参加度（30%）   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科算数  |      |    |
| 教員名   | 山本 景一   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校算数の基本用語と基本概念を説明することができる。</li> <li>・算数学習における算数的活動の重要性について論じることができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 小学校算数の教科書との関連づけを行いながら、算数の背景にある体系と数学を概説する。算数的活動を通じた学習の重要性を実践例や教具等を示しながら解説する。   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (何のための算数教育か)</li> <li>2. 学習指導要領の変遷と思考力・表現力 (言語・表現活動)</li> <li>3. 算数と人間の活動 (自然数・数の把握と表記)</li> <li>4. 数と計算① (数の表し方)</li> <li>5. 数と計算② (たし算とひき算)</li> <li>6. 数と計算③ (かけ算とわり算)</li> <li>7. 量と測定① (量の性格, 測定の4段階)</li> <li>8. 図形① (平面図形)</li> <li>9. 算数的活動と数学的な考え方</li> <li>10. 量と測定② (面積公式)</li> <li>11. 図形② (立体図形)</li> <li>12. 算数学習と問題解決</li> <li>13. 数量関係① (関数の考え)</li> <li>14. 数量関係② (資料の整理と読み)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義形式ではあるが、ディスカッションも行う。  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した文献等を事前に読み、ミニレポートを作成する。</li> <li>・講義内容の復習や宿題レポートを作成する。</li> </ul>  |      |    |
| 教科書   | 文部科学省：小学校学習指導要領解説(算数編)、東洋館出版社<br>赤井利行 編著：わかる算数科指導法 東洋館出版社 2012年   |      |    |
| 参考書   | 適宜、授業の中で参考図書等を紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業における課題提出と発表・ディスカッション等への参加度 50%<br>期末試験 50点   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科生活  |      |    |
| 教員名   | 田中 あき子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 小学校の生活科を指導するための基礎的内容を体験を通して習得する。  |      |    |
| 授業概要  | <p>本講義では、教科の誕生、改訂の意義と社会的背景を理解し、「児童の身近な人々、社会および自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる」という教科目標を理解することを目的とする。</p> <p>また、生活科の内容と基礎知識を獲得し、小学校低学年児童における学習指導のあり方を学ぶ。特に、学校探検の実際、四季の変化と子どもの生活、自然や物を使った遊び等の教材を取り上げ、その目標および内容、課題等を考察する。</p>  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 : 生活科の誕生の背景と教科の特性<br>第 2 回 : 生活科の目標と内容<br>第 3 回 : 授業の実際 1 (学校と生活)<br>第 4 回 : 授業の実際 (学校探検のまとめと交流)<br>第 5 回 : 生活科指導の重点 (体験・表現)<br>第 6 回 : 授業の実際 2 (自然や物を使った遊び)<br>第 7 回 : 遊びに使うものの製作と交流<br>第 8 回 : 評価と活動計画<br>第 9 回 : 授業の実際 3 (季節の変化と生活)<br>第 10 回 : 授業の実際 4 (生活の出来事の交流)<br>第 11 回 : 授業の実際 5 (自分の生活)<br>第 12 回 : 授業の実際 6 (まわりの人びと)<br>第 13 回 : 授業の企画書作成<br>第 14 回 : 年間指導計画の基礎知識<br>第 15 回 : まとめ<br>期末試験 |      |    |
| 授業方法  | 講義<br>小集団による演習と協議、プレゼンテーション   |      |    |
| 授業外学習 | 生活科についての質問事項、「自分が考える生活科の授業」などを課題とする。<br>具体的には授業で指示する。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説 生活科   |      |    |
| 参考書   | なし  |      |    |
| 評価方法  | レポート 30% 授業への参加度 20% 期末試験 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教科音楽   |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・幼稚園・保育所の実践指導において必要となる音楽的な知識や技能を身につけることができる。</li> <li>・小学校で扱われる音楽教材の内容について分析し、総合的に理解することができる。</li> <li>・和太鼓の演習を通して日本音楽への理解を深めることができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 小学校学習指導要領の内容で取り扱われている表現・鑑賞の指導内容に即し、小学校教科書教材の基礎的な音楽の知識や技能を、演習によって獲得する。基本的な楽典や音楽の構成を理解し、授業実践に必要な実技を身につけ、教員採用試験における音楽実技試験に対応する。   |      |    |
| 授業計画  | 第01回 小学校音楽科学習の内容について<br>第02回 学習指導要領で扱われている楽典について<br>第03回 歌唱教材研究(1)<br>第04回 歌唱教材研究(2)<br>第05回 歌唱教材研究(3)<br>第06回 器楽教材研究(1)<br>第07回 器楽教材研究(2)<br>第08回 器楽教材研究(3)<br>第09回 音づくり教材研究(1)<br>第10回 音づくり教材研究(2)<br>第11回 音づくり教材研究(3)<br>第12回 鑑賞教材研究(1)<br>第13回 鑑賞教材研究(2)<br>第14回 鑑賞教材研究(3)<br>第15回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義と一斉・グループによる演習  |      |    |
| 授業外学習 | 楽典に関しては全ての教材研究を通して取り扱われるので、復習をして確実に習得する。実技に関しては反復復習し、楽器演奏の技能を身につける。  |      |    |
| 教科書   | 初等科音楽教育研究会編 『最新 初等科音楽教育法 [改訂版] 小学校教員養成課程』 音楽之友社 2013   |      |    |
| 参考書   | 鈴木恵美子・富田英也著 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社 2013   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 60%、授業内試験・レポート 40%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教科図画工作   |      |    |
| 教員名   | 上田 慎二  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>・教員として造形活動の指導に必要なとなる材料研究に取り組み、活用にあたっての最低限の知識・技能を身につける。</p> <p>・幼稚園及び小学校で行われる造形及び鑑賞の学習指導にあたって必要な、子どもの造形表現の発達に配慮した教材開発のあり方や評価と指導の実践的スキルなどを身につける。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>教師には図画工作のセンスやスキルなどの素養とともに、教師自身が図画工作を心から楽しむ経験を積み、態度を身につける必要がある。そのために、これまで経験したものはやや趣向の異なる図画工作題材を楽しみながら意識の切り替えを促す。特に、不思議、奇妙、発見など感じながら創作を体験する。子どもの図画工作活動に関わっていく教師として必要な知識を理解し、子どもの心情に共感していく感性、資質を培うために、自己の体験を深める。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス</li> <li>(2) 教材研究 I パス・コンテの技法</li> <li>(3) 教材研究 II 水彩えのぐの技法 I</li> <li>(4) 教材研究 III 水彩えのぐの技法 II</li> <li>(5) 教材研究 IV 折り紙の技法</li> <li>(6) 壁面制作</li> <li>(7) 材料をもとに表す造形活動の導入と展開「ならべる・つなぐ・つむ」</li> <li>(8) 材料をもとに表す造形活動の導入と展開「組む」</li> <li>(9) 感じたことや空想したことをもとに表す造形活動の導入と展開（絵に表す）</li> <li>(10) 教材研究 V 版画の表現 I</li> <li>(11) 教材研究 V-2 版画の表現 II</li> <li>(12) 教材研究 VI 粘土の表現 I</li> <li>(13) 教材研究 VI-2 粘土の表現 II</li> <li>(14) 教材研究 VI-3 粘土の表現 III</li> <li>(15) まとめと製作ノート提出</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 演習方式。授業ごとに課題を紹介し、活動記録を保存していく。  |      |    |
| 授業外学習 | 講義時間に作成した教材研究サンプル、及び作品にかかわる振り返り項目のまとめ。振り返りの観点は第 1 回の授業時にプリントにて告知します。   |      |    |
| 教科書   | <p>新造形表現 実技編 三晃書房 花篤 實 岡田?吾 編著 2009</p> <p>学習指導要領</p> <p>[使用教材]</p> <p>絵の具用具 (18 色程度)、水彩筆 (4, 6, 8, 12 号)、パス類 16 色程度 (クレヨンまたはクレパス)、鉛筆 (4B)、はさみ、カッターナイフ、のり、木工用ボンドなどを各自用意する。コンテパステル、スケッチブックは購入方法の指示を待つように。</p>   |      |    |
| 参考書   |  |      |    |
| 評価方法  | <p>製作ノート (ポートフォリオ) 提出</p> <p>評価規準</p> <p>○ 各講義のねらい及び内容が概ね満たされている。</p> <p>○ 受講内容を適切にポートフォリオ化し、活用できる資料としている。</p> <p>※課題の欠落もしくは欠落に相当する成果を減点対象とする。</p> <p>授業への参加度 (授業態度等) (50%) 課題提出等 (50%)</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科体育  |      |    |
| 教員名   | 松田 光弘   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 体育科教育に関する基礎的な知識を習得できる   |      |    |
| 授業概要  | 体育科の目標や計画, 学習内容, 授業づくり, 学習指導, 評価などについて, 体育に関する文献を購読し, ディスカッション形式で進め理解を深めていく。また, 現在の学校体育における課題についても焦点をあて, その解決の方向性について検討していく。  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 オリエンテーション<br>第 2 回 体育科教育学の概要<br>第 3 回 学習指導要領にみる体育目標<br>第 4 回 体育科の教育課程とカリキュラム<br>第 5 回 体育科の学習内容<br>第 6 回 体育科の教材と教具<br>第 7 回 体育学習指導の具体的進め方<br>第 8 回 体育授業における指導技術<br>第 9 回 体育授業における学習評価<br>第 10 回 体育の授業づくり① (個人種目)<br>第 11 回 体育の授業づくり② (集団種目)<br>第 12 回 学校体育における課題① (体力低下問題)<br>第 13 回 学校体育における課題② (体育の学力とその育成)<br>第 14 回 学校体育における課題③ (体育授業と部活動)<br>第 15 回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とする。また, 後期授業科目の体育指導法に繋がることを踏まえ, 調査検討および発表も含めた授業展開を行う。   |      |    |
| 授業外学習 | ①学習指導要領を深く理解するために, 学年, 種目ごとに内容をまとめる。<br>②学習状況を確認するためのミニレポートを実施する。   |      |    |
| 教科書   | 「体育科教育学入門」高橋健夫ほか 大修館書店  |      |    |
| 参考書   | 「中学校学習指導要領解説保健体育編」文部科学省   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 50%, 課題レポート 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 子ども健康学  |      |    |
| 教員名   | 安部 恵子   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 子どもの心身の発育発達特性を理解し、対象およびめあてにそった指導案の作成ができる。   |      |    |
| 授業概要  | 現在の子ども健康に関する諸問題は深刻であり、その解決には子どもの発達特性を知った上で小学校保健授業を実施する必要がある。本講義では、子どもの体力・運動能力特性を学んだ上で、小学校指導要領を基に保健授業の指導案作成と指導を模擬授業形式で実践する。また、子どもの身体的特性を学び呼吸器系・循環器系・神経系の発達と各種運動が生体にどのような影響を及ぼすのかを学習し保健教育の重要性を学ぶ。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 本講義の目的と評価基準について<br>第2回 児童の発育発達特性について(呼吸器・循環器・神経)<br>第3回 小学校保健授業の目的と内容について(模擬授業担当決め)<br>学年別、単元別に指導案作成<br>第4回 指導案作成について<br>第5回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践①と振り返り<br>第6回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践②と振り返り<br>第7回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践③と振り返り<br>第8回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践④と振り返り<br>第9回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑤と振り返り<br>第10回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑥と振り返り<br>第11回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑦と振り返り<br>第12回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑧と振り返り<br>第13回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑨と振り返り<br>第14回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑩と振り返り<br>第15回 総括 |      |    |
| 授業方法  | 講義および模擬授業の実施を行う。  |      |    |
| 授業外学習 | 毎回の模擬授業の単元ごとに、各学年、各単元の指導要領を読み解き学習準備を行う  |      |    |
| 教科書   | 教科書 「新しいほけん3・4年生」 / 「新しい保健5・6年生」東京書籍  |      |    |
| 参考書   | 特になし  |      |    |
| 評価方法  | 評価方法 取り組み状況 60% 指導案作成 20% 模擬授業指導力 20%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教職に関する科目（小学校一種）

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教職概論（幼稚園）  |      |    |
| 教員名   | 上中 ひろ子   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職に関する理解を深めることができる。</li> <li>・教職に必要な基本的な知識と見識を身につけ教育的課題に真摯に関心をもち論じ合うことができる。</li> <li>・幼稚園における保育のプログラムの立案ができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>教職の意義や教員の役割、職務内容などに関する知識を修得することを通して、学生が教職について理解を深めることを目的とする。具体的には、教員の地位・身分、教員の職務内容、教員に求められる資質と能力、現在の学校教育問題、学校の管理・運営、教員研修、教員の養成と採用などの多角的な内容について概観することによって、教職の動機付けを図る。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第 1 回 オリエンテーション（講義の目的・講義方法・評価法等）<br/> 第 2 回 働く目的と保育哲学（保育所・幼稚園の資格と職務の特徴）<br/> 《指導要領と保育指針》<br/> 第 3 回 先生とは（教員免状について）解説する。<br/> 第 4 回 園での教師・保育士の役割と信頼について解説する。<br/> 第 5 回 教師・保育士の仕事と留意点解説する。<br/> 第 6 回 教育現場が求めている教師像を討議し解説する。<br/> 第 7 回 教育法規とサービスについて解説する。<br/> 第 8 回 子どもの問題行動と指導の在り方について討議し解説する。<br/> 第 9 回 子ども理解を解説する。（堺市人権ふれあいセンターに於いて）<br/> 第10回 人権教育について解説する。（同上）<br/> 第11回 堺市人権ふれあいセンターで実習する。（同上）<br/> 第12回 プロとしての教師・保育士の資質（エコグラムを行う）<br/> 第13回 中間考査と解答<br/> 第14回 指導計画の考え方と指導案の書き方<br/> 第15回 指導案作成</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とし、グループ討議と発表。絵本と手遊びの発表を行う。   |      |    |
| 授業外学習 | 絵本・手遊びの下調べと発表に向けての練習をする。<br>毎回レビューシートを提出する。  |      |    |
| 教科書   | 幼稚園教育要領 保育指針   |      |    |
| 参考書   | 毎回プリントを配布する。   |      |    |
| 評価方法  | テスト 50% レビューシート 30% 絵本・手遊び発表10%<br>授業への参加度10%（グループ討議への理論的、積極的発言と行動）  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育原理  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 幼稚園・小学校教員をめざす学生に必要な資質・能力のうち次の2点について育成する。<br>(1) 教育の理念・教育史・教育思想の基礎的知識を習得する。<br>(2) 現在の教育問題の背景を幅広い視点から考えられるようになる。   |      |    |
| 授業概要  | 「教育とは何か」という問いについて考える。それは「人間にとって教育は必要か」と問うことでもある。授業の終わりには、「学校教育は必要か」という問いに受講生が答えることができるようになることをめざす。<br>考える手立てとして、次の2つの方法をとる。<br>(1) 西洋と日本の教育思想を学ぶ。<br>(2) 授業外課題として、新聞の切り抜き記事にもとづくコメント作成をおこなう。<br>新明解国語辞典(三省堂)によるなら、「原理」とは「多くの物事がそれによって説明することができると考えられる根本的な理論」のことである。各  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション<br>第02回 人間に教育は必要か；カントとポルトマンを中心に<br>第03回 西洋教育史(古代)：ソクラテスとプラトンの教育思想<br>第04回 西洋教育史(中世)：中世の教育と大学の発生<br>第05回 西洋教育史(近世)：ルターとコメニウスの教育思想<br>第06回 西洋教育史(近代)：ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想<br>第07回 西洋教育史(近代)：近代公教育の成立と民衆教育<br>第08回 西洋教育史(現代)：新教育と現代の教育<br>第09回 日本教育史(近世)：近世の教育と教育思想<br>第10回 日本教育史(近代)：学制の成立から国家主義の時代へ<br>第11回 日本教育史(現代)；戦後教育と教育改革<br>第12回 学校を取り巻く環境の変化と教育<br>第13回 子育てと家庭・地域<br>第14回 グローバリズムと教育<br>第15回 まとめ：人間と教育 |      |    |
| 授業方法  | ペアやグループによるディスカッション、発表等の言語活動をふくむ演習的な方法を随時とり入れた講義。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業配布プリントについて定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(2) 教科書について定期的にレポート課題を示す。締切までにレポートを提出すること。<br>(3) 教科書について定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(4) 「新聞レポート」を自由課題とする。新聞の教育関係記事を読み、切り抜いて貼り、要旨とコメントを書いて提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養I 教育原理・教育史』七賢出版  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文(3×15回=45%)＋定期小テスト(30%)＋レポート(25%)<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育心理学  |      |    |
| 教員名   | 永井 明子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員にとって必要な教育心理学の知識を得る</li> <li>・具体的な事例を知ることにより教員志望の意欲を高める</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：オリエンテーション<br/> 第2回：人間発達の理解（1）－発達とは何か・原理・規定因－<br/> 第3回：人間発達の理解（2）－発達理論－<br/> 第4回：乳・幼児期の理解－乳・幼児期の心理－<br/> 第5回：児童期・青年期の理解－身体・知能・言語・社会性・人格の発達－<br/> 第6回：学習の理解（1）－学習とは何か・成立過程－<br/> 第7回：学習の理解（2）－学習成立の条件－<br/> 第8回：学習成果の保持と転移－記憶とは何か・忘却のメカニズム－<br/> 第9回：授業の心理－理論・形態・最適化－<br/> 第10回：教育評価の方法－視点・目的と時期・学力テスト・知能テスト－<br/> 第11回：教育データの収集と分析－方法・教育統計－<br/> 第12回：学校適応－いじめ・不登校・人間関係－<br/> 第13回：発達障害（1）－知的障害・自閉症・高機能広汎性発達障害－<br/> 第14回：発達障害（2）－学習障害・注意欠陥・多動性障害－<br/> 第15回：まとめ<br/> 期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | グループディスカッション・簡単な実験等も取り入れる。   |      |    |
| 授業外学習 | <p>①授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やボランティア・インターンシップ等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。</p> <p>②新聞から教育や発達に関する記事を選びコピーし、内容を要約した上でコメントしたものを提出。</p> <p>③授業の範囲を予習し、予習ノートを作ったものを提出。</p>  |      |    |
| 教科書   | 西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』ナカニシヤ出版   |      |    |
| 参考書   | 東京アカデミー 教職教養Ⅱ 『教育心理学』<br>サイエンス社 心理学ベーシックライブラリ 5-I 『教育心理学Ⅰ：発達と学習』   |      |    |
| 評価方法  | ミニレポート 50%・期末試験 50%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育行政学  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1) 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論や基礎知識を習得できる。<br>(2) 教育行政の仕組みや教育法規を現実の状況と関係させて理解することができる。   |      |    |
| 授業概要  | この授業は、学校教育の社会的・制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本的確に理解できるようにするほか、特に憲法、教育基本法、学校教育法等について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業を行う。   |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション；教育行政学とは何を学ぶのか<br>第02回 法と行政についての基礎<br>第03回 教育法規の体系と日本国憲法<br>第04回 教育基本法その1（教育の目的関連）／定期小テスト1<br>第05回 教育基本法その2（教育行政関連）<br>第06回 教育行政における現代的課題<br>第07回 学校に関する法規と学校経営<br>第08回 学校教育に関する法規その1（学校教育法関連）／定期小テスト2<br>第09回 学校教育に関する法規その2（学校教育法施行規則関連）<br>第10回 児童・生徒・子どもに関する法規その1（「子どもの権利」関連）<br>第11回 児童・生徒・子どもに関する法規その2（児童福祉法ほか）<br>第12回 教職員に関わる法規その1（教育公務員特例法ほか）／定期小テスト3<br>第13回 教職員に関わる法規その2（教育職員免許法ほか）<br>第14回 教育委員会<br>第15回 社会教育・家庭教育と教育行政／定期小テスト4 |      |    |
| 授業方法  | 講義を中心に行う。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書（学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト）、授業で配布する補助プリント等を学習すること。<br>(2) 定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養Ⅱ教育心理学 教育法規』七賢出版  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介します。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文（3%×15回=45%）＋定期小テスト（30%）＋レポート（25%）<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育課程論(幼・小) (B12・B13) / 教育課程論 (B10・B11)  |      |    |
| 教員名   | 長尾 彰夫   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育学校の教育課程に関する基本的概念を理解できる。</li> <li>・教育課程の対象方法を説明できる。</li> <li>・学習指導要領に従い教育課程の編成を試みる事が出来る。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程(カリキュラム)とは何かについての原理的な説明をする。</li> <li>・教育課程の原理と原則について解説する。</li> <li>・教育課程の基準である学習指導要領の特徴について説明する。</li> <li>・各学校の教育課程編成の具体的なプランの作成を試みる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーション(授業の目標と形態、評価方法について)<br>第2回 教育課程とは何か、その歴史について<br>第3回 教育課程とカリキュラムの違いについて<br>第4回 教育課程編成の基本的視点(その1) 学問の系統性<br>第5回 教育課程編成の基本的視点(その2) 子どもの発達段階<br>第6回 教育課程編成の基本的視点(その3) 社会の教育的要請<br>第7回 中間まとめとディスカッション<br>第8回 教育課程編成と学習指導要領の関係性<br>第9回 学習指導要領の歴史の変遷<br>第10回 現行の学習指導要領の特徴<br>第11回 学習指導要領の総則について<br>第12回 各教科の目標と内容について<br>第13回 各学校における教育課程編成上の課題について<br>第14回 学校における教育課程編成を試みる<br>第15回 まとめとディスカッション |      |    |
| 授業方法  | 講義形態を基本としつつもなるだけ質問、ディスカッションの機会を設ける。   |      |    |
| 授業外学習 | 学校インターンの経験などを適宜レポートさせる。<br>教育課程編成や学習指導要領関連の新聞記事などを収集させる。  |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説・総則編   |      |    |
| 参考書   | 特に指定しない。  |      |    |
| 評価方法  | 授業中に適宜実施する試験50% 授業中の小レポート30% 授業参加度20%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育方法の理論と実践（幼・小）（B12・B13）／（教育方法の研究）（B10・B11）   |      |    |
| 教員名   | 野崎 康夫   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>(1) 多数ある教育技術の中から最も自身の指導に適したものを選ぶことができるように基礎的な教育方法の理論・知識を習得する。</p> <p>(2) 具体的な実習を通して、子どもが学習していくための道筋を明らかにし、それらを評価できる基本的教育観点を身に付ける。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>教材文の読み取り、樹木図鑑の作成、絵本の読み聞かせの工夫、タグラグビーの実習などを通して、ベーシックな教育理論を考える。同時にそれらの教育実践が、どのような教育理論によって裏打ちされているのかをクラス討議や小論文作成を行いながら考える。さらに、授業を進めていく上で必要と思われる情報機器の利用や情報の活用方法等についても学ぶ。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 はじめにー授業の見取り図の説明と教科書の利用の仕方ー</p> <p>第2回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える（1） 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第3回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える（2） 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第4回 コミュニケーションの果たす教育的役割を考える（3） 「説明文の学習」をてがかりに</p> <p>第5回 ルールの役割とは何か（1） 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第6回 ルールの役割とは何か（2） 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第7回 ルールの役割とは何か（3） 「タグラグビー」をてがかりに</p> <p>第8回 「分けること」の意味を考える（1） 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第9回 「分けること」の意味を考える（2） 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第10回 「分けること」の意味を考える（3） 「電子樹木図鑑作り」をてがかりに</p> <p>第11回 表現することの意味（1） 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第12回 表現することの意味（2） 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第13回 表現することの意味（3） 絵本の読み聞かせの工夫</p> <p>第14回 教育とは何か（1） 映画『ブタがいた教室』を手がかりに</p> <p>第15回 教育とは何か（2） 映画『ブタがいた教室』を手がかりに</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義とグループ活動（グループ討論やグループでの製作を含む）   |      |    |
| 授業外学習 | 授業で指示した教科書の個所を必ず事前に読む   |      |    |
| 教科書   | 『教育「疑術」論』野崎康夫(著) アドバンテージサーバー  |      |    |
| 参考書   | 小学校学習指導要領 総則編   |      |    |
| 評価方法  | テーマ毎の小レポート及び作品提出50% 最終レポート50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 国語科教育法   |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 1. 小学校国語科の内容と指導法を習得することができる。<br>2. 板書や話し方、表情など授業を行う上での基本的表現力を習得することができる。<br>3. 国語科の学習指導案を作成することができる。   |      |    |
| 授業概要  | 国語科の3つの領域（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと）、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の関連性について理解する。<br>国語科学習指導案の記述の方法について理解し、「読むこと」領域を中核としてそれぞれの領域ごとの単元について学習指導案を作成する。指導案にしたがって、模擬授業を行い、相互批評、あるいは指導を行う。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 単元を構想した授業のあり方と 国語科学習指導案の書き方についての解説1<br>第2回 単元を構想した授業のあり方と 国語科学習指導案の書き方についての解説2<br>第3回 低学年の「読むこと」文学作品の学習指導案作成とその評価<br>第4回 学習指導案を基にした模擬授業の実施と相互評価、指導<br>第5回 高学年の「読むこと」文学作品の学習指導案作成とその評価<br>第6回 学習指導案を基にした模擬授業の実施と相互評価、指導<br>第7回 「話すこと・聞くこと」の学習指導案作成とその評価<br>第8回 学習指導案を基にした模擬授業の実施と相互評価、指導<br>第9回 単元を構想した授業のあり方と 国語科学習指導案の書き方についての解説3<br>第10回 低学年の「読むこと」説明的文章の学習指導案作成とその評価<br>第11回 学習指導案を基にした模擬授業の実施と相互評価、指導<br>第12回 高学年の「読むこと」説明的文章の学習指導案作成と評価<br>第13回 学習指導案を基にした模擬授業の実施と相互評価、指導<br>第14回 「書くこと」の学習指導案作成とその評価<br>第15回 単元を構想した授業のあり方と 国語科学習指導案の書き方についてのまとめ |      |    |
| 授業方法  | 指導案作成についての解説、指導案作成、模擬授業、討論   |      |    |
| 授業外学習 | 指導案作成、模擬授業の準備、教科書に提示した本を活用すること   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説「国語編」   |      |    |
| 参考書   | 必要に応じて関連するプリントを配布する。   |      |    |
| 評価方法  | 学習指導案 (50%)、模擬授業への参加度 (20%)、授業への参加度 (30%)  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 社会科教育法  |      |    |
| 教員名   | 岡崎 裕  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 社会科学習指導案を作成できるようになる。<br>教育実習において社会科授業が担当できる。  |      |    |
| 授業概要  | 小学校における社会科とは何かを学び、身近な生活と社会の関係について、よりわかりやすく、理解しやすい指導法を学ぶ。また、小学校における社会科授業の基礎的な理論についての理解とカリキュラム、および授業構成のための基本的力量を身に付ける。特に本講義では、社会科教育の目標と内容、社会科の歴史と授業の現状、および授業計画の立案と作成について学習することを目的とする。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回：オリエンテーション～私（たち）の社会科～<br>第2回：現代の社会と社会科の本質～Social Studies について～<br>第3回：社会科の歴史～戦前・戦中の社会科および戦後初期社会科～<br>第4回：学習指導要領1～学習指導要領の変遷～<br>第5回：学習指導要領2～地理・歴史・公民～<br>第6回：学習指導要領3～「総合的な学習」と「地域」～<br>第7回：社会科授業の実践1～教材の選択と学習指導の計画～<br>第8回：社会科授業の実践2～社会科授業の技術と方法～<br>第9回：社会科授業の実践3～社会科における学力と評価～<br>第10回：模擬授業1<br>第11回：模擬授業2<br>第12回：模擬授業3<br>第13回：模擬授業4<br>第14回：模擬授業5<br>第15回：新たな課題への対応～グローバル化・持続可能な開発・国際理解～ |      |    |
| 授業方法  | 講義と演習   |      |    |
| 授業外学習 | 1-2 社会科教育に関するレポート<br>3-6 社会科の歴史に関する読書課題<br>7-9 社会科授業実践に関する読書課題<br>10-14 模擬授業の準備   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説社会編  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度、学習指導計画、模擬授業の実施などを総合的に判断する。  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 算数科教育法   |      |    |
| 教員名   | 山本 景一  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数・数学教育の諸問題を捉え、今何が求められているかを論ずることができる。</li> <li>・学習指導要領（算数）の内容を基底とする授業の指導方法を習得する。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | この授業では、算数・数学教育にあつて、昨今の学校現場を取り巻く問題は何か、何が求められているのかについて論ずる。また、授業を子ども・教師・社会相互の営みで捉えた授業実践のあり方や子どもの認識発達に応じた教材研究、ノート指導とその評価方法について論ずる。   |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回：算数・数学教育を巡る諸問題<br>第 2 回：現行学習指導要領（算数）概論と学力観<br>第 3 回：学習指導要領と指導の系統性 ー分数概念の理解を通してー<br>第 4 回：数学的な考え方と問題解決過程<br>第 5 回：学習指導要領の変遷と思考力・表現力<br>第 6 回：算数的活動を考えて授業を計画しよう 1 ー数と計算領域ー<br>第 7 回：模擬授業をしよう 1 ー数と計算領域ー<br>第 8 回：ノート指導を意識した授業を計画しよう 2 ー量と測定領域ー<br>第 9 回：模擬授業をしよう 2 ー量と測定領域ー<br>第 10 回：教材・教具を工夫した授業を計画しよう 3 ー図形領域ー<br>第 11 回：模擬授業をしよう 3 ー図形領域ー<br>第 12 回：評価活動を取り入れた授業を計画しよう 4 ー数量関係領域ー<br>第 13 回：模擬授業をしよう 4 ー数量関係領域ー<br>第 14 回：事例研究 ー習熟度別少人数の授業ー<br>第 15 回：まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とグループ討議  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定したテキストについて事前に読み、専門用語等を理解しておく。</li> <li>・宿題レポートの作成を行う。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館出版社、<br>赤井利行編著 わかる算数科指導法 東洋館出版社 2012 年<br>国立教育政策研究所教育課程研究センター『評価規準の作成のための参考資料（小学校）』2010 年   |      |    |
| 参考書   | 適宜、授業の中で参考図書等を紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | グループワーク等への議論の参加（20%）、宿題レポート（30%）、期末課題レポート（50%）   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 理科教育法   |      |    |
| 教員名   | 間處 耕吉   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>学習指導要領の変遷をその歴史的背景と関連づけて理解する。</p> <p>理科の指導目標を理解すると共に、そのために必要な学習のあり方を検討することができる。</p> <p>理科の学習内容について、その意義を理科の目標と関連づけて説明できる。</p> <p>小学校理科における教材の特徴を理解し、その学習意義を説明できる。</p> <p>理科の評価についての特徴を理解し、その方法の検討ができる。</p> <p>理科の学習において、児童の思考活動に注目した指導方法の検討ができる。</p> <p>これらを総合して学習指導案を作成できる。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>理科教育の歴史的展開、目標論、内容構成論、授業論、評価論、現代の課題などについて、学習指導要領の歴史的な変遷にも言及しながら、理科教育を概観し、実践上の諸課題（理科離れ、科学的思考力、環境教育など）を探究する。特に、理科の目標の考え方や代表的な教材の学習を通して、その教材の必要性やそこに込められている意義を探究する。同時に様々な授業方法についても、実際の指導場面を想定したマイクロティーチングなどの活動を通して理解を深める。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、「理科で何を学ぶのか」、<br/>「科学的な見方・考え方とは」（グループワーク）</li> <li>2 自然科学と理科、理科学習と言語学習</li> <li>3 学習指導要領と学習理念の変遷</li> <li>4 理科教育の今日的な課題について（理科離れ、科学的思考力の育成、環境教育とESD）</li> <li>5 科学的思考力と思考活動、思考活動を促す学習指導のあり方</li> <li>6 理科室運営（薬品管理、備品・消耗品の管理、薬品の調製、安全指導）</li> <li>7 物理分野に関するマイクロティーチング</li> <li>8 化学分野に関するマイクロティーチング</li> <li>9 生物分野に関するマイクロティーチング</li> <li>10 地学分野に関するマイクロティーチング</li> <li>11 理科実験・演習（実験・観察の意義、演示実験、野外観察、生物教材）</li> <li>12 評価の考え方やその方法（評価と評定、評価規準と評価基準、<br/>観点別評価の方法、逆引き授業設計）</li> <li>13 学習指導案の書き方（評価と展開、単元観と指導観、児童観）</li> <li>14 学習指導案作成</li> <li>15 学習指導案の検討</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | <p>前半は講義によって、理科教育の概観を説明する。必要に応じてグループ討議を取り入れて、理科教育のあり方や現在の課題を探究する。その後、物理・化学・生物・地学各分野の内容に関わる小学校の教材をとりあげ、グループごとで実際の指導場面を想定したマイクロティーチングを行う。最後に、それまでの授業の内容を元にして学習指導案の作成を行う。</p>  |      |    |
| 授業外学習 | <p>毎回の講義内容の整理を行っておく。マイクロティーチングの授業案を作成する。最後に作成する学習指導案を作成する。</p>  |      |    |
| 教科書   | 教科書は使用しない。必要な資料はプリントにして授業で配布する。   |      |    |
| 参考書   | 小学校学習指導要領解説理科編、中学校学習指導要領解説理科編、小学校理科教科書、中学校理科教科書   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度10% レポート・マイクロティーチング授業案40% 指導案作成50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 生活科教育法  |      |    |
| 教員名   | 田中 あき子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>生活科の指導に必要な指導内容・指導方法に関する基礎的な知識・技能を習得する。</li> <li>生活科の諸活動に対して興味関心を持つことができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>子どもは本来、生活体験の中で様々な事柄について興味関心を持ち、そのものの本質や疑問に探究心を持って取り組もうとする姿がある。このような子どもの本来持っている主体的な態度を、学校で活かしていくべきと考えられた生活科をどのように展開していくことが望ましいか、実際の授業や事例を通して学ぶことを目的とする。</p> <p>さらに、具体的な活動や体験を通して、見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど直接働きかける指導案の作成、指導を実践する。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 : オリエンテーション：生活科導入の目的と大事にすること</p> <p>第2回 : 生活科とはどのような教科か</p> <p>第3回 : 低学年児童の生活環境と生活科の課題について（教科の特質と意義）</p> <p>第4回 : 実際の授業をもとに生活科の授業を考える</p> <p>第5回 : 学習指導案の必要性と内容、作成について</p> <p>第6回 : 評価のありかたについて</p> <p>第7回 : 教材研究Ⅰと指導案の検討 「身近な自然やものを使った遊び」</p> <p>第8回 : 教材研究Ⅱと指導案の検討 「季節の変化と自然」</p> <p>第9回 : 教材研究Ⅲと指導案の検討 「飼育栽培指導」</p> <p>第10回 : 学習指導案の作成</p> <p>第11回 : 学習指導案の検討と模擬授業</p> <p>第12回 : 学習指導案の検討と模擬授業</p> <p>第13回 : 学習指導案の検討と模擬授業</p> <p>第14回 : 教師の力量形成と授業技術について</p> <p>第15回 : まとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | <p>講義</p> <p>小集団による演習と模擬授業、討議</p>   |      |    |
| 授業外学習 | 生活科についての質問事項、「気づきの質が深まる生活科の授業の進め方」などを課題とする。具体的には授業で指示する。  |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説 生活科   |      |    |
| 参考書   | なし  |      |    |
| 評価方法  | レポート30% 授業への参加度30% 課題レポート40%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 音楽科教育法   |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科学習指導要領を理解し、児童の実態に応じた指導方法を身につけることができる。</li> <li>・音楽授業に必要な教材分析力と実践指導力を身につけることができる。</li> <li>・音楽科の学習指導案を作成することができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>学習指導要領の小学校音楽科の目標及び内容を理解し、教科としての特性を知り、授業を実践する上で必要な内容について学習する。特に学習指導要領に基づいた基本的な指導法の習得に重点を置き、音楽科の授業を進める上で必要となる「教材分析・歌唱指導・器楽指導・鑑賞指導・簡単な指揮法」等の基本的な項目について学習する。また、学習指導案を作成し、模擬授業とその振り返りを通して実践的な指導力を身につける。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 オリエンテーション・音楽科学習指導要領の解説<br/> 第02回 基本的な音楽授業の進め方、評価の仕方や単元構成と教材の概要の理解<br/> 第03回 基本的な歌唱教材分析<br/> 第04回 基本的な器楽教材分析<br/> 第05回 基本的な鑑賞・創作教材分析<br/> 第06回 低学年での指導方法<br/> 第07回 低学年での指導案の作成<br/> 第08回 模擬授業を通じた指導方法の検討と習得<br/> 第09回 中学年での指導方法<br/> 第10回 中学年での指導案の作成<br/> 第11回 模擬授業を通じた指導方法の検討と習得<br/> 第12回 高学年での指導方法<br/> 第13回 高学年での指導案の作成<br/> 第14回 模擬授業を通じた指導方法の検討と習得<br/> 第15回 まとめと音楽科教育の抱える課題検討</p> |      |    |
| 授業方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科教材研究と、学習指導案の作成の解説</li> <li>・指導案作成と模擬授業の指導</li> </ul>  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の分析研究のレポート課題を提出する。</li> <li>・学習指導案の作成と模擬授業の準備をする。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | <p>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 音楽編』 教育芸術社 2012<br/> 初等科音楽教育研究会編 『最新 初等科音楽教育法（改訂版） 小学校教員養成課程用』 音楽之友社 2013</p>  |      |    |
| 参考書   | <p>小学第1学年～第6学年音楽科教科書<br/> 小島律子 『新訂版 小学校音楽科の学習指導—生成の原理による授業デザイン—』 廣済堂あかつき 2011</p>  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 40%、 学習指導案 30%、 模擬授業実践・教材分析研究レポート 30%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 図画工作科教育法   |      |    |
| 教員名   | 上田 慎二  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>○学習指導要領図画工作科編に記述されている教科の目標と内容を正しく理解し、児童の実態に応じた教材化の視点 及び具体的な指導方法が身につく。</p> <p>○教員による模擬授業及び表現活動を通して、授業における評価と指導の実践力が身につく。</p> <p>○上記の内容について、授業実施を想定して、題材設定の理由、目標と評価基準の設定、学習活動と指導上の留意点 などにまとめ、学習指導案作成の活動を通して具体的な授業づくりの力が身につく。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>図画工作活動は、子どもの発育発達において大事な意味を持つ活動である。本講義では、表現の発生から始まり、成長の道筋を述べ、発達論的な理解を深めることを目的とする。また、様々な種類の紙・数種類の粘土・身近な素材（自然物および人工物や廃材）を使った図画工作の基礎および応用までを実践的に学習する。さらに、学生自身が工作に挑戦することで図画工作の自由な発想を尊重し、楽しさや達成感を体験する。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：学習指導要領における図画工作科の位置づけについて？</p> <p>第2回：学習指導要領の構造及び内容について？</p> <p>第3回：造形表現の発達と表現形式について？</p> <p>第4回：指導要領の解釈「絵や立体、工作に表す」</p> <p>第5回：指導要領の解釈「鑑賞」</p> <p>第6回：「絵に表す」の指導と評価 実践を通して</p> <p>第7回：「鑑賞」の指導と評価 実践を通して</p> <p>第8回： 図工科で扱う材料・用具について</p> <p>第9回：「立体に表す」の指導と評価 実践を通して</p> <p>第10回：「工作に表す」の指導と評価 実践を通して</p> <p>第11回：「造形遊び」の指導と評価 実践を通して</p> <p>第12回：「表現」と「鑑賞」の一体化を図る指導と実際</p> <p>第13回：学習指導案の作成</p> <p>第14回：指導と評価について</p> <p>第15回：講義全体のまとめとふりかえり</p> |      |    |
| 授業方法  | 学習内容により、講義と実践演習を併用する。  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習あるいは復習としての学習指導要領のまとめ。</li> <li>・課題ごとに製作記録をファイルにまとめていきます。</li> <li>・学習指導案の作成などを予定。</li> </ul> <p>場合によっては相当の時間を要する活動もあります。計画的に取り組むようにしましょう。</p>  |      |    |
| 教科書   | 『私がつくる図画工作科の授業 ふぞろいな学習指導案』 日本文教出版 2011 阿部宏行/岩崎由紀夫編著  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する   |      |    |
| 評価方法  | 作品製作・レポート提出・出席状況・各自の授業の取り組み姿勢を重視し評価します。<br>授業への参加度（授業態度等）(50%) 提出物 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |                                  |    |
|-------|--|----------------------------------|----|
| 科目名   | 家庭科教育法   |                                  |    |
| 教員名   | 板倉 明子  |                                  |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態                             | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数                              | 2  |
| 履修年次  | 3  | 学期                               | 後期 |
| 到達目標  | 家庭科の意義を認識した上で、学習指導要領、教科書、実際の指導事例などをもとに、小学校家庭科の目標と内容を理解し、基本的な教材研究や指導方法を習得することができる。また、子ども達が主体的に生活者として自立できるように導くために、総合的・創造的な視野を持って指導計画と学習指導案を作成し、模擬授業を行って教育実践力をつける。   |                                  |    |
| 授業概要  | 家庭科では、実践的・体験的な活動を通して学習することを重視しているが、子ども達が自分の可能性を發揮しながら、意欲的に自己表現できる授業実践をいかに進めればよいかを考察していく。特に、「衣・食・住」、「消費生活と環境問題」、「家庭生活と家族」などを軸として、指導者として必要な知識と技能を習得し、指導と評価の一体化について理解を深める。  |                                  |    |
| 授業計画  | <p>第1回 家庭科教育の理念と家庭科の目標</p> <p>第2回 家庭科の内容と指導計画・学習評価</p> <p>第3回 身近な消費者と環境問題の指導方法の検討</p> <p>第4回 基礎縫い（ミシンの扱い方）の授業展開・・・実技テストを含む</p> <p>第5回 ミシンを使った実習の指導方法の検討・・・作品製作を含む</p> <p>第6回 第4・5回の授業内容に関する学習指導案（A）の作成</p> <p>第7回 日常の食事と調理の基礎の指導計画</p> <p>第8回 調理実習の指導方法の検討・・・調理実習を含む</p> <p>第9回 安全教育（食中毒や事故の予防）と家庭科室の維持・管理</p> <p>第10回 模擬授業・・・食生活</p> <p>第11回 指導計画の作成と学習指導案（B）の準備</p> <p>第12回 学習指導案（B）の作成</p> <p>第13回 快適な住まい方の指導方法の検討</p> <p>第14回 模擬授業・・・消費生活と環境</p> <p>第15回 日本の伝統的な食文化と家庭科教育に関するまとめ</p> |                                  |    |
| 授業方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式の他、被服（裁縫）実習・調理実習を各2回、模擬授業・授業内テスト（実技・筆記）を実施する。</li> <li>・毎回、授業終了時に課題（レポートや作品）を提出する。</li> </ul> <p>※履修登録をした者は、速やかに「教材費（実習授業で自分が消費する材料費）」を支払うこと。</p>  |                                  |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に学習指導案を作成するが、第1回目は指定条件のもとで、2回目は全領域の中から選択して作成する。2種類共に授業内で作成していくが、授業外でも案を練って仕上げ、期限内に提出する。</li> <li>・授業内テスト（筆記・実技）は事前に伝えるので、復習をしておき、必ず出席して受験する。</li> <li>・欠席などで取り組めなかった課題は、後日必ず作成して提出する。尚、実習授業の場合は、後日代替課題の指示があるので、期限内に提出する。また、教育実習等の公欠が多い場合は、別課題を与える。</li> </ul>  |                                  |    |
| 教科書   | <p>①平成27年度版「わたしたちの家庭科 小学校5・6」（開隆堂）</p> <p>②「小学校学習指導要領解説 家庭科編」（文部科学省）</p>   |                                  |    |
| 参考書   | 小学校学習指導要領の他、授業中に適宜紹介する。  |                                  |    |
| 評価方法  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業における課題（レポート・製作作品など）</li> <li>・学習指導案・模擬授業・授業内テスト</li> <li>・授業への参加態度</li> </ul>   | <p>45%</p> <p>40%</p> <p>15%</p> |    |
|       | ※本科目は90分で完結の実習が多いが、それを含む毎回の授業で提出する課題の評価配点が高い。そこで、毎回時間厳守で出席して、積極的に取り組むこと。   |                                  |    |
| 既修条件  | なし   |                                  |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 体育科教育法  |      |    |
| 教員名   | 松田 光弘   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 体育科教育に関する基礎的な知識を習得するとともに授業計画づくりや教授技能、授業評価法を学び実践力を身につける。   |      |    |
| 授業概要  | 効果的な体育授業を行うためには、体育科の目標を理解し、その上で学習内容や学習指導、評価などについての知識が求められる。本授業では、体育科教育学の基礎知識を習得しながら、実際の体育授業の教材づくりやカリキュラム作成に取り組む。  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 オリエンテーション<br>第 2 回 体育科の領域と目標<br>第 3 回 体育科の学習内容<br>第 4 回 体育科の教材・教具<br>第 5 回 体育科の学習指導と指導技術<br>第 6 回 体育科のカリキュラム作成① (年間指導計画, 単元指導計画)<br>第 7 回 体育科のカリキュラム作成② (学習指導案の作成)<br>第 8 回 体育科の授業づくり① (体づくり運動)<br>第 9 回 体育科の授業づくり② (陸上競技)<br>第 10 回 体育科の授業づくり③ (マット運動)<br>第 11 回 体育科の授業づくり④ (球技: ゴール型)<br>第 12 回 体育科の授業づくり⑤ (球技: ネット型)<br>第 13 回 体育科の授業づくり⑥ (体育理論)<br>第 14 回 体育科の授業評価 (授業評価法, 授業観察法)<br>第 15 回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 作成された指導案をもとに、随時指導実践を行う。また種目ごとに「ふりかえり」の時間を設け課題を抽出し検討する。  |      |    |
| 授業外学習 | ・「体育を通して生徒をどのように育てるのか」をテーマとしたレポート作成・提出する。<br>・各自が作成した指導案の振り返りと、指導実践後、修正を行い提出をする。  |      |    |
| 教科書   | 「体育科教育学入門」高橋健夫ほか 大修館書店  |      |    |
| 参考書   | 「中学校学習指導要領解説保健体育編」文部科学省   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 50%, 課題レポート 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 道徳教育の理論と実践 (小) (B12・B13) / 道徳教育の理論と実践 (B10・B11)  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1) 小学校段階の道徳教育の内容と方法に関する基礎的知識を習得する。<br>(2) 学習指導案作成、模擬授業を通して児童の反応を想定した指導の基礎を習得する。   |      |    |
| 授業概要  | <p>小学校学習指導要領によるなら、道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われ、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを目的としている。この授業では次の4つの問いについて学ぶ。</p> <p>(1) 道徳とは何か。なぜ道徳教育は必要なのか。<br/> (2) 道徳教育で何を教えるか (内容)。<br/> (3) 道徳をどうやって教えるか (方法)。<br/> (4) 日本において学校教育と道徳教育はどのような関係にあるか。</p> <p>中央教育審議会答申(2008)では、国際社会における競争と共生に対応しうる「開かれた個」の必要を説いている。(1)～(4)を通して、グローバルズムと道徳教育との関わりについて考えるための基礎を学ぶ。</p>  |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション：道徳教育をふり返る。<br>第02回 道徳とは何か。教育における道徳性の位置づけを知る。<br>第03回 道徳教育の歴史<br>第04回 学習指導要領の変遷と道徳教育／定期小テスト1<br>第05回 学習指導要領に見る道徳教育の構造<br>第06回 道徳教育と人権教育1 (日本)<br>第07回 道徳教育と人権教育2 (世界)<br>第08回 道徳教育の手法を学ぶ：理論／定期小テスト2<br>第09回 道徳教育の手法を学ぶ：読み物教材<br>第10回 道徳教育の手法を学ぶ：モラル・ジレンマ<br>第11回 道徳教育の手法を学ぶ：参加型学習の基本<br>第12回 道徳教育の手法を学ぶ：多様性の承認／定期小テスト3<br>第13回 教科等における道徳教育<br>第14回 道徳の授業指導案作成と模擬授業1 (読み物教材)<br>第15回 道徳の授業指導案作成と模擬授業2 (参加型学習) / 定期小テスト4 |      |    |
| 授業方法  | ディスカッション、模擬授業の演習的方法をとり入れた講義  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書(学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト)、授業で配布する補助プリント等を学習すること。<br>(2) 定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説「道徳編」   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文 (3%×15回=45%) + 定期小テスト (30%) + レポート (25%)<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 特別活動論 (小) (B12・B13) / 特別活動論 (B10・B11)   |      |    |
| 教員名   | 磯島 秀樹   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 1. 特別活動の意義と課題、方法、歴史の変遷、目標、内容について理解する。<br>2. 特別活動の評価について理解する。<br>3. 特別活動に関する実践的指導力の基礎を培う。  |      |    |
| 授業概要  | 特別活動は、「望ましい集団活動」を通して、「心身の調和のとれた発達」、「個性の伸長」、「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築く」などの「自主的、実践的な態度」を育て、「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力」を養うことを目標とする教育活動である。本授業では、特別活動の意義と課題、方法、歴史の変遷、目標、内容（学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事）、さらに特別活動と教科・外国語活動・総合的な学習の時間・道徳等との関連や特別活動の評価について概説する。また、特別活動の教材研究や特別活動   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 はじめにー「特別活動」を振り返るー<br>第2回 特別活動の教育的意義と実践的課題<br>第3回 特別活動の方法<br>第4回 特別活動の歴史の変遷<br>第5回 学級活動の目標と内容<br>第6回 学級活動についての教材研究<br>第7回 児童会活動・クラブ活動の目標と内容<br>第8回 学校行事の目標と内容<br>第9回 特別活動と各教科・外国語活動・総合的な学習の時間・道徳等との関連<br>第10回 特別活動と学級集団づくり<br>第11回 特別活動と生徒指導<br>第12回 特別活動の評価<br>第13回 特別活動の指導案の作成と教材研究<br>第14回 特別活動の模擬授業<br>第15回 まとめと小テスト |      |    |
| 授業方法  | 講義、事例研究、グループワーク   |      |    |
| 授業外学習 | 授業で指示する。  |      |    |
| 教科書   | 文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別活動編』東洋館出版社  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 (50%)、課題レポート・小テスト等 (50%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 生徒・進路指導論 (小) (B12・B13) / 生徒・進路指導論 (B10・B11)  |      |    |
| 教員名   | 杉田 郁代  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の意義・目的や歴史的変遷について理解する。</li> <li>・生徒指導に関わる子どもの現状と課題について理解する。</li> <li>・進路指導・キャリア教育の意義・目的、理論と方法について理解する。</li> <li>・子ども理解及び「学級集団づくり」の具体的かつ多様な方法論を習得する。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>生徒指導の意義・目的や歴史的変遷、生徒指導に関わる子どもの現状と課題、進路指導・キャリア教育の意義・目的理論と方法、子ども理解及び「学級集団づくり」の方法論等について概説する。さらに、生徒指導実践の基盤としての日常の学級集団形成（学級集団づくり）の重要性や児童・生徒に自己の生き方を考え主体的に進路を選択する力を身に付けさせることの意義について考察し、生徒指導及び進路指導についての基礎的・実践的な力量を養うことを目指す。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 はじめにー「生徒指導」を振り返るー</p> <p>第2回 生徒指導の意義</p> <p>第3回 生徒指導の目的</p> <p>第4回 生徒指導の歴史的変遷</p> <p>第5回 生徒指導の基本課題（社会的自立、規範意識、コミュニケーション能力）</p> <p>第6回 進路指導・キャリア教育①（意義と目的）</p> <p>第7回 進路指導・キャリア教育②（理論と方法）</p> <p>第8回 進路指導・キャリア教育③（指導の実際と課題）</p> <p>第9回 不登校への対応</p> <p>第10回 いじめへの対応</p> <p>第11回 暴力行為や児童虐待への対応</p> <p>第12回 子どもの自尊感情を育む生徒指導実践①（自尊感情）</p> <p>第13回 子どもの自尊感情を育む生徒指導実践②（学級集団づくりと人間関係づくり）</p> <p>第14回 子どもの自尊感情を育む生徒指導実践③（自尊感情と他尊感情）</p> <p>第15回 まとめと小テスト</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義、事例研究、グループワーク  |      |    |
| 授業外学習 | 授業で指示する。（授業の振り返り、課題レポートの作成等）   |      |    |
| 教科書   | 配布資料を用いる。  |      |    |
| 参考書   | 文部科学省『生徒指導提要』教育図書、平成22年  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度（50%）、課題レポート・小テスト等（50%）   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育相談 (幼・小) (B12・B13) / 教育相談 (B10・B11)  |      |    |
| 教員名   | 中村 健   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の意義がわかる</li> <li>・自己・他者理解及びその交互作用をカウンセリング技法から学び、用いることができる</li> <li>・基礎・基本的な教育相談の実践を行うことができる</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>今日の学校教育臨床では、教師相互はもとより、保護者やスクールカウンセラーをはじめとする専門家・地域の人々等とかかわり合い、つながり合って、子どもの成長を育み、指導・援助していくことが求められている。</p> <p>そこでこの授業ではまず、学校教育相談における予防的・開発的・治療的教育相談について概説した上で、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ。</p> <p>そして、いじめ・不登校等のいわゆる不適応事象のみでなく、日常的な学校教育場面での学習面、心理・社会面、進路面、健康面にかかわる事象に関する事例やスクールカウンセラーとの連携、チーム援助活動の実際例を通して、教師に求められるカウンセリングを生かした学校教育相談活動について理解する。また、そのために必要とされるチーム援助の実際などを体験的に学びながら実践力を養う。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ー学校教育相談とはー</li> <li>2. 構成的グループ・エンカウンターと関係づくり</li> <li>3. 学校教育相談の領域</li> <li>4. 予防・開発的学校教育相談と治療的教育相談</li> <li>5. 指導と援助について</li> <li>6. 子ども・保護者理解について</li> <li>7. 子ども・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法1 ー「聞く」と「聴く」ー</li> <li>8. 子ども・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法2 ー「聴く」と「訊く」ー</li> <li>9. ブリーフ・セラピーの活用</li> <li>10. 学校内外での連携と協働</li> <li>11. コンサルテーションとコーディネーション</li> <li>12. 教育臨床場面でのチーム支援の実際</li> <li>13. 日米のスクールカウンセリング活動の相違</li> <li>14. 教師とスクールカウンセラーの関係</li> <li>15. まとめと課題・授業内テスト</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 講義のみでなく、ソーシャル・スキル・トレーニング、構成的グループ・エンカウンター、ブリーフ・セラピー等の実習も行う。   |      |    |
| 授業外学習 | 毎回、授業の振り返りや予習課題等を指示する  |      |    |
| 教科書   | 伊藤美奈子・春日井敏之編著 中村健 他著「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房 2011   |      |    |
| 参考書   | 講義中、適宜紹介する   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 25%・講義中のミニレポート 25%・テスト 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育実習指導 (幼・小)   |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二 松久 眞実 山本 景一 (小学校)  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫することができる。</li> <li>・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。</li> <li>・教育実習に関する事務的な流れを理解することができる。</li> <li>・教育実習後の成果と課題を整理し、報告書を作成し、報告会で報告することができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>事前：教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での各教科に関する指導案の立案および指導法や学級活動、課外活動等について事前の準備を行う。</p> <p>自分の実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の子ども観や授業への考え方を深める。また、実習に対する不安を解消する過程を通して、学習意欲の充実も図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされる態度や資質を身に付ける。</p> <p>事後：報告書の作成と体験発表を行う。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 教育実習の意義と目的</p> <p>第2回 学校全体の教育活動の概観</p> <p>第3回 教職員の職務の概観</p> <p>第4回 教育実習の具体的内容と指導教員の役割</p> <p>第5・6・7回 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導 (その1)</p> <p>第8・9・10回 学習指導案作成と模擬授業の実施とその指導 (その2)</p> <p>第11回 学級集団の形成と規律ある学級経営についての理解</p> <p>第12回 生徒指導面での対応についての理解</p> <p>第13回 教育実習における課題の確認と教育実習に臨む姿勢の涵養</p> <p>第14・15回 教育実習に関する事務的な説明およびその習得</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義、模擬授業の実施とその指導  |      |    |
| 授業外学習 | 学習指導案作成とその準備、学級経営や生徒指導に関する情報収集   |      |    |
| 教科書   | なし   |      |    |
| 参考書   | なし   |      |    |
| 評価方法  | 学習指導案と模擬授業の参加度 (40%)、実習に臨む姿勢や学習成果の整理 (30%)、授業への参加度 (30%)   |      |    |
| 既修条件  | 履修の手引きの「教育職員免許状について」に記載  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教職実践演習 (幼・小・中)  |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子 (幼稚園)   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 4   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <p>・今までに履修した教科に関する科目・教職に関する科目やさまざまな活動を通して身につけた資質能力が、実践現場で幼稚園教員・保育士としていかに生かされていくのか、知識・能力・実践的指導力がいかに身についてきたか、最終的に確認することができる。</p> <p>・幼稚園教員志望者として、自己の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、実践的指導力を身につけることができる。</p>   |      |    |
| 授業概要  | 教職課程履修カルテを基に自己評価し、自己課題を明確にする。幼稚園教員としての使命や子どもへの責任の理解、子どもの発達や心身の理解、クラス経営、保育・教育の専門知識と保育の指導法、地域や他校種との連携について、グループ討議・事例研究・模擬保育を通して学ぶ。   |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 「教職実践演習」の目的、意義、授業進行の説明</p> <p>第02回 「教職課程履修カルテ」に基づく教育実践力の自己評価</p> <p>第03回 子どもの発達・心身の状況理解</p> <p>第04回 幼稚園と家庭・保護者及び地域との連携</p> <p>第05回 他校種(保育所・小学校)との連携</p> <p>第06回 教職員の協働</p> <p>第07回 特別支援教育への理解</p> <p>第08回 育てたい子ども像とクラス経営</p> <p>第09回 実践現場の調査</p> <p>第10回 実践現場を基にした発表</p> <p>第11回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第12回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第13回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第14回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第15回 まとめと教育実践力の自己最終評価</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義・グループ討議・事例研究・模擬保育等を取り入れ展開する。  |      |    |
| 授業外学習 | <p>・毎回の授業テーマについて、自分自身の考えを整理しておくこと。</p> <p>・毎回の授業内容とディスカッションの内容に関する考察をレポートとして提出すること。</p>   |      |    |
| 教科書   | <p>文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2013</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2013</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2014</p>   |      |    |
| 参考書   | 増田まゆみ・夜藤誠慈郎 『ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習』 建帛社 2014  |      |    |
| 評価方法  | 発表(模擬保育・実践現場報告など)(40%)、保育指導案・事例研究・授業課題の考察レポート(40%)、授業への参加態度(20%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教科に関する科目（小学校一種）

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科国語  |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 教科国語の内容と構造を理解し、学習指導の基本的事項を身に付けることができる。  |      |    |
| 授業概要  | <p>小学校国語の目的とその意義を理解することを目的としている。特に、小学校学習指導要領国語科（文部科学省作成）をもとに内容を解説し、書写を含む小学校国語教科書の構成を理解する。</p> <p>（1）話すこと、聞くこと、読むこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についての内容の構成や学年に応じた配置と意図の理解、（2）文学的作品や説明的文章の基本的構造および表現方法の理解、（3）基礎的語彙の習得や正しい文字の表記法、整った文字の記述等を学習する。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第 1 回 国語科学習指導要領を解説し、理解を図る。</p> <p>第 2 回 国語科学習指導要領の内容の定着を図る。</p> <p>第 3 回 国語科教科書の「話すこと・聞くこと」の系統を理解する。</p> <p>第 4 回 国語科教科書の「書くこと」の系統を理解する。</p> <p>第 5 回 国語科教科書の「読むこと」の系統を理解する。</p> <p>第 6 回 国語科教科書の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の系統を理解する。</p> <p>第 7 回 小学校低学年の「読むこと」説明的文章教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 8 回 小学校低学年の「読むこと」文学作品教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 9 回 小学校高学年の「読むこと」説明的文章教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 10 回 小学校高学年の「読むこと」文学作品教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 11 回 小学校低・中・高学年の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の教材を読み、付けたい力を明確にした単元観を書く。</p> <p>第 12 回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動 1 を行う。</p> <p>第 13 回 小学校低・中・高学年の「話すこと・聞くこと」の単元について理解し、言語活動 2 を行う。</p> <p>第 14 回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動を行う。</p> <p>第 15 回 小学校低・中・高学年の「書くこと」の単元について理解し、言語活動を行う。</p> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義と討論、参加型アクティビティ  |      |    |
| 授業外学習 | ワークシートの記入や言語活動を行うので、その予習をする。<br>単元観を書くので、提示した教科書や教材をよく読んでおく。<br>文字を正しく整えて書く練習をする。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説「国語編」  |      |    |
| 参考書   | 必要に応じて関連プリントを配布する。  |      |    |
| 評価方法  | 試験（40%）、単元観などの提出物（30%）、授業への参加度（30%）   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科社会  |      |    |
| 教員名   | 岡崎 裕  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1) 小学校の社会科教育課程の全体像を理解する。<br>(2) 地理、歴史、公民の各領域に関する内容を理解する。   |      |    |
| 授業概要  | 小学校社会科の内容とその構成を理解することを目的とする。小学校社会科は、社会生活についての理解を図り、日本と世界の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うことが目的とされている。そこで、地域や国土の地理や歴史、産業について、地図や統計資料を利用しながら学習し、教科書で扱われている教材を自ら研究・検討できる能力をつける。  |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーション<br>第2回 教科社会の全体像について<br>第3回 地理1 身近な地域<br>第4回 地理2 日本の国土と産業<br>第5回 地理3 日本の気候と環境<br>第6回 歴史1 日本史の概観<br>第7回 歴史2 古代<br>第8回 歴史3 中世<br>第9回 歴史4 近世<br>第10回 歴史5 近代・現代<br>第11回 公民1 日本の政治<br>第12回 公民2 日本国憲法<br>第13回 公民3 経済と国民の生活<br>第14回 公民4 国連と国際社会<br>第15回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義  |      |    |
| 授業外学習 | 1-2 社会科に関するレポート<br>3-5 地理に関する読書課題<br>6-10 歴史に関する読書課題<br>11-14 公民に関する読書課題  |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説 社会編   |      |    |
| 参考書   | 適宜指定  |      |    |
| 評価方法  | 出席50%、レポート30%、授業への参加20%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 世界の国々   |      |    |
| 教員名   | 亀井 慶二   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際社会と教育についての基礎的な知識が身につくようになる。</li> <li>・世界の国々についての調べ学習・発表が出来るようになる。</li> <li>・日本と国際社会の関係についての知識が身につくようになる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | 途上国の子どもたちに対する国際教育協力を学ぶことにより、国際社会と教育の関係を理解するための基礎知識を身につける。また、わが国と関係の深い国々を取り上げ、基礎的な説明を行った後、いずれかの国を選択して自ら調べる学習を行うことにより、諸外国の事情を具体的に理解できるようにする。その他、世界の国々の発展に対して政府やNGO、国際連合などが行っている国際協力が果たしている役割についても扱う。  |      |    |
| 授業計画  | 第1回：オリエンテーション<br>第2回：国際社会における国<br>第3回：先進国と途上国<br>第4回：南北問題と貧困<br>第5回：国際教育協力の現状と課題<br>第6回：教育を受ける機会と就学率<br>第7回：教育の質の課題と教育格差<br>第8回：国際社会で活躍する日本の青年<br>第9回：国際社会の抱える課題<br>第10回：国際連合と安全保障<br>第11回：教育分野で活躍する専門機関<br>第12回：アジア・アフリカの国々<br>第13回：ヨーロッパ・アメリカの国々<br>第14回：国際社会の抱える課題と日本<br>第15回：授業のまとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義と関連教材の視聴、及び学生による調べ学習や発表により実施する。   |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中に配布された授業用資料をよく読んでおく。</li> <li>・授業中に実施した小テストの復習をする。</li> <li>・国際社会に関する新聞記事を読んでレジュメを作り、授業で発表する。</li> <li>・各自がテーマを決めて調べ学習を行い、授業で発表する。</li> </ul>  |      |    |
| 教科書   | なし  |      |    |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 授業への積極的な参加度や小テスト等の授業への参加度(50%)、課題レポート等提出物(50%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科算数  |      |    |
| 教員名   | 山本 景一   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校算数の基本用語と基本概念を説明することができる。</li> <li>・算数学習における算数的活動の重要性について論じることができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 小学校算数の教科書との関連づけを行いながら、算数の背景にある体系と数学を概説する。算数的活動を通じた学習の重要性を実践例や教具等を示しながら解説する。   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション (何のための算数教育か)</li> <li>2. 学習指導要領の変遷と思考力・表現力 (言語・表現活動)</li> <li>3. 算数と人間の活動 (自然数・数の把握と表記)</li> <li>4. 数と計算① (数の表し方)</li> <li>5. 数と計算② (たし算とひき算)</li> <li>6. 数と計算③ (かけ算とわり算)</li> <li>7. 量と測定① (量の性格, 測定の4段階)</li> <li>8. 図形① (平面図形)</li> <li>9. 算数的活動と数学的な考え方</li> <li>10. 量と測定② (面積公式)</li> <li>11. 図形② (立体図形)</li> <li>12. 算数学習と問題解決</li> <li>13. 数量関係① (関数の考え)</li> <li>14. 数量関係② (資料の整理と読み)</li> <li>15. まとめ</li> </ol> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義形式ではあるが、ディスカッションも行う。  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定した文献等を事前に読み、ミニレポートを作成する。</li> <li>・講義内容の復習や宿題レポートを作成する。</li> </ul>  |      |    |
| 教科書   | 文部科学省：小学校学習指導要領解説(算数編)、東洋館出版社<br>赤井利行 編著：わかる算数科指導法 東洋館出版社 2012年   |      |    |
| 参考書   | 適宜、授業の中で参考図書等を紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業における課題提出と発表・ディスカッション等への参加度 50%<br>期末試験 50点   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科理科  |      |    |
| 教員名   | 間處 耕吉   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1)自然科学における基本的概念を通じて、基礎・基本的内容を習得する。<br>(2)初等理科の教科内容の背景および身近な自然事象・現象の原理・原則を理解する。   |      |    |
| 授業概要  | 現代人の教養としての自然科学全般について、学習する。全体を通じて、絶えず巨視的(マクロ)な見方と微視的(ミクロ)な見方を対比させながら、自然に対する科学的な見方の全体像が把握できるような構成になっている。  |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物質を見る目 (巨視的視点: 物質の3態)</li> <li>2. 物質を見る目 (微視的視点: 原子・分子)</li> <li>3. 物質が混ざる (溶解) (巨視的)</li> <li>4. 物質が変化 (分解・化合) (微視的)</li> <li>5. 光・音エネルギー (巨視的・微視的)</li> <li>6. 力 (巨視的)</li> <li>7. 電気エネルギー (巨視的・微視的)</li> <li>8. エネルギーと運動 (変化) (巨視的)</li> <li>9. 植物のくらしと仕組み (巨視的)</li> <li>10. 動物のくらしと仕組み (巨視的)</li> <li>11. 生物の増え方—遺伝 (微視的)</li> <li>12. 天体の動き (巨視的)</li> <li>13. 気象 (巨視的)</li> <li>14. 地球の構成 (巨視的・微視的)</li> <li>15. 自然と人間 環境問題</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 授業では、日常生活に結びついた解説、演示実験、個別小実験、映像を交えて、理解を深める。   |      |    |
| 授業外学習 | 小テストやレポート提出を行うことで、既習の内容の復習をさせる。   |      |    |
| 教科書   | 実験・観察でつくる62の授業 佐久間徹編著 フォーラム・A<br>配付資料 学習指導要領「理科」  |      |    |
| 参考書   | なし  |      |    |
| 評価方法  | 小テスト・レポート60% 授業中の質疑発表応答など40%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |       |
|-------|--|------|-------|
| 科目名   | 理科実験演習   |      |       |
| 教員名   | 間處 耕吉  |      |       |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習    |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 1     |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 前期・後期 |
| 到達目標  | 理科授業に必要な実験・観察に関わる基本的な知識と技能を習得するとともに、理科授業の実践力を養う。   |      |       |
| 授業概要  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめの数回は実験・観察に必要な技能習得のための実験・観察を行い、レポートの書き方も学習する。</li> <li>・実験・観察はグループ単位で行うが、レポートは個人で作成する。</li> <li>・段階的に高度な課題に取り組み、レポート作成を通じて「考察する」力を高めていく。</li> </ul>  |      |       |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1) オリエンテーション, 生物分野の観察・実験演習①</li> <li>2) 生物分野の観察・実験演習②</li> <li>3) 実験・観察の基礎</li> <li>4) 化学分野の実験演習①</li> <li>5) 化学分野の実験演習②</li> <li>6) 化学分野の実験演習③</li> <li>7) 物理分野の実験演習①</li> <li>8) 物理分野の実験演習②</li> <li>9) 物理分野の実験演習③</li> <li>10) 生物分野の観察・実験演習③</li> <li>11) 地学分野の観察・実験演習①</li> <li>12) 地学分野の観察・実験演習②</li> <li>13) 地学分野の観察・実験演習③</li> <li>14) 環境に関わる実験演習①</li> <li>15) 環境に関わる実験演習②</li> </ol> |      |       |
| 授業方法  | 毎回テーマを設定して、そのテーマに沿った実験・観察を行う。毎回、各自で実験・観察の結果をもとにしたレポートを作成して提出する。  |      |       |
| 授業外学習 | 毎回行った実験・観察についてのレポートを次回までに作成する。   |      |       |
| 教科書   | 教科書は使用しない。必要な資料はプリントを配布する。   |      |       |
| 参考書   | 小学校学習指導要領解説理科編, 中学校学習指導要領解説理科編, 小学校理科教科書, 中学校理科教科書   |      |       |
| 評価方法  | 毎回提出するレポートで評価する。   |      |       |
| 既修条件  | なし   |      |       |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科生活  |      |    |
| 教員名   | 田中 あき子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 小学校の生活科を指導するための基礎的内容を体験を通して習得する。  |      |    |
| 授業概要  | <p>本講義では、教科の誕生、改訂の意義と社会的背景を理解し、「児童の身近な人々、社会および自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせる」という教科目標を理解することを目的とする。</p> <p>また、生活科の内容と基礎知識を獲得し、小学校低学年児童における学習指導のあり方を学ぶ。特に、学校探検の実際、四季の変化と子どもの生活、自然や物を使った遊び等の教材を取り上げ、その目標および内容、課題等を考察する。</p>  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 : 生活科の誕生の背景と教科の特性<br>第 2 回 : 生活科の目標と内容<br>第 3 回 : 授業の実際 1 (学校と生活)<br>第 4 回 : 授業の実際 (学校探検のまとめと交流)<br>第 5 回 : 生活科指導の重点 (体験・表現)<br>第 6 回 : 授業の実際 2 (自然や物を使った遊び)<br>第 7 回 : 遊びに使うものの製作と交流<br>第 8 回 : 評価と活動計画<br>第 9 回 : 授業の実際 3 (季節の変化と生活)<br>第 10 回 : 授業の実際 4 (生活の出来事の交流)<br>第 11 回 : 授業の実際 5 (自分の生活)<br>第 12 回 : 授業の実際 6 (まわりの人びと)<br>第 13 回 : 授業の企画書作成<br>第 14 回 : 年間指導計画の基礎知識<br>第 15 回 : まとめ<br>期末試験 |      |    |
| 授業方法  | 講義<br>小集団による演習と協議、プレゼンテーション   |      |    |
| 授業外学習 | 生活科についての質問事項、「自分が考える生活科の授業」などを課題とする。<br>具体的には授業で指示する。   |      |    |
| 教科書   | 小学校学習指導要領解説 生活科   |      |    |
| 参考書   | なし  |      |    |
| 評価方法  | レポート 30% 授業への参加度 20% 期末試験 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教科音楽   |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・幼稚園・保育所の実践指導において必要となる音楽的な知識や技能を身につけることができる。</li> <li>・小学校で扱われる音楽教材の内容について分析し、総合的に理解することができる。</li> <li>・和太鼓の演習を通して日本音楽への理解を深めることができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 小学校学習指導要領の内容で取り扱われている表現・鑑賞の指導内容に即し、小学校教科書教材の基礎的な音楽の知識や技能を、演習によって獲得する。基本的な楽典や音楽の構成を理解し、授業実践に必要な実技を身につけ、教員採用試験における音楽実技試験に対応する。   |      |    |
| 授業計画  | 第01回 小学校音楽科学習の内容について<br>第02回 学習指導要領で扱われている楽典について<br>第03回 歌唱教材研究(1)<br>第04回 歌唱教材研究(2)<br>第05回 歌唱教材研究(3)<br>第06回 器楽教材研究(1)<br>第07回 器楽教材研究(2)<br>第08回 器楽教材研究(3)<br>第09回 音づくり教材研究(1)<br>第10回 音づくり教材研究(2)<br>第11回 音づくり教材研究(3)<br>第12回 鑑賞教材研究(1)<br>第13回 鑑賞教材研究(2)<br>第14回 鑑賞教材研究(3)<br>第15回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義と一斉・グループによる演習  |      |    |
| 授業外学習 | 楽典に関しては全ての教材研究を通して取り扱われるので、復習をして確実に習得する。実技に関しては反復復習し、楽器演奏の技能を身につける。  |      |    |
| 教科書   | 初等科音楽教育研究会編 『最新 初等科音楽教育法 [改訂版] 小学校教員養成課程』 音楽之友社 2013   |      |    |
| 参考書   | 鈴木恵美子・富田英也著 『改訂 ポケットいっぱいのおうた 実践子どものうた 簡単に弾ける144選』 教育芸術社 2013   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 60%、授業内試験・レポート 40%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教科図画工作   |      |    |
| 教員名   | 上田 慎二  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>・教員として造形活動の指導に必要なとなる材料研究に取り組み、活用にあたっての最低限の知識・技能を身につける。</p> <p>・幼稚園及び小学校で行われる造形及び鑑賞の学習指導にあたって必要な、子どもの造形表現の発達に配慮した教材開発のあり方や評価と指導の実践的スキルなどを身につける。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>教師には図画工作のセンスやスキルなどの素養とともに、教師自身が図画工作を心から楽しむ経験を積み、態度を身につける必要がある。そのために、これまで経験したものはやや趣向の異なる図画工作題材を楽しみながら意識の切り替えを促す。特に、不思議、奇妙、発見など感じながら創作を体験する。子どもの図画工作活動に関わっていく教師として必要な知識を理解し、子どもの心情に共感していく感性、資質を培うために、自己の体験を深める。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ガイダンス</li> <li>(2) 教材研究 I パス・コンテの技法</li> <li>(3) 教材研究 II 水彩えのぐの技法 I</li> <li>(4) 教材研究 III 水彩えのぐの技法 II</li> <li>(5) 教材研究 IV 折り紙の技法</li> <li>(6) 壁面制作</li> <li>(7) 材料をもとに表す造形活動の導入と展開「ならべる・つなぐ・つむ」</li> <li>(8) 材料をもとに表す造形活動の導入と展開「組む」</li> <li>(9) 感じたことや空想したことをもとに表す造形活動の導入と展開（絵に表す）</li> <li>(10) 教材研究 V 版画の表現 I</li> <li>(11) 教材研究 V-2 版画の表現 II</li> <li>(12) 教材研究 VI 粘土の表現 I</li> <li>(13) 教材研究 VI-2 粘土の表現 II</li> <li>(14) 教材研究 VI-3 粘土の表現 III</li> <li>(15) まとめと製作ノート提出</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 演習方式。授業ごとに課題を紹介し、活動記録を保存していく。  |      |    |
| 授業外学習 | 講義時間に作成した教材研究サンプル、及び作品にかかわる振り返り項目のまとめ。振り返りの観点は第 1 回の授業時にプリントにて告知します。   |      |    |
| 教科書   | <p>新造形表現 実技編 三晃書房 花篤 實 岡田?吾 編著 2009</p> <p>学習指導要領</p> <p>[使用教材]</p> <p>絵の具用具 (18 色程度)、水彩筆 (4, 6, 8, 12 号)、パス類 16 色程度 (クレヨンまたはクレパス)、鉛筆 (4B)、はさみ、カッターナイフ、のり、木工用ボンドなどを各自用意する。コンテパステル、スケッチブックは購入方法の指示を待つように。</p>   |      |    |
| 参考書   |  |      |    |
| 評価方法  | <p>製作ノート (ポートフォリオ) 提出</p> <p>評価規準</p> <p>○ 各講義のねらい及び内容が概ね満たされている。</p> <p>○ 受講内容を適切にポートフォリオ化し、活用できる資料としている。</p> <p>※課題の欠落もしくは欠落に相当する成果を減点対象とする。</p> <p>授業への参加度 (授業態度等) (50%) 課題提出等 (50%)</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科家庭  |      |    |
| 教員名   | 板倉 明子   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 「家庭科」の意義や内容について理解するとともに、多角的・総合的な視野から本教科の課題を把握することができる。その中で生活者としての自立を目指すために、各領域の知識・技能を高め、主体的に自分の意見を構築できることを目指す。また、習得した知識・技能を日常生活で活かせる実践力を養うことを到達目標とする。   |      |    |
| 授業概要  | 特に小学校での家庭科学習に関わる内容、即ち、衣食住の生活・家族関係・家庭経済・消費者問題・環境問題などを中心に扱う。知識・技能の実力を向上させるために講義内容を精査する他、実習を伴う演習などの実践的な機会をなるべく多く設けて、理論的・実証的に授業を展開していく。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーション・・・家庭科を学ぶ意義<br>第2回 家庭生活と家族・・・「家庭生活と家族」領域の内容・家庭の機能・多様な家族<br>第3回 住生活(1)・・・季節による快適な住まい方<br>第4回 住生活(2)・・・「住生活」領域の内容・住まいの機能・住居の衛生と安全<br>第5回 食生活(1)・・・食事の機能・食品と五大栄養素・小中学生に関する食生活の問題<br>第6回 食生活(2)・・・食品の安全性<br>第7回 食生活(3)・・・調理実習A(実技テストを含む)<br>第8回 授業内中間試験と調理指導に関する留意点<br>第9回 食生活(4)・・・調理実習B<br>第10回 衣生活(1)・・・「衣生活」領域の内容・衣服の機能・衣服内気候・繊維の特徴<br>第11回 衣生活(2)・・・衣服の手入れ(洗濯や管理)・取扱い絵表示など<br>第12回 衣生活(3)・・・基礎縫い(手縫い)の実習A<br>第13回 衣生活(4)・・・基礎縫い(手縫い)の実習B<br>第14回 消費者と環境(1)・・・契約・悪徳商法と消費者保護<br>第15回 消費者と環境(2)・・・循環型社会・グリーンコンシューマー・3Rから5Rへ(実践演習を含む) |      |    |
| 授業方法  | 講義形式の他、調理実習や被服(裁縫)実習を各2回実施し、他にも体験学習を行う。<br>授業終了時には、毎回課題(レポートや作品)を提出し、授業内で筆記・実技テストを実施する。<br>※履修登録をした者は、速やかに『教材費(実習授業で自分が消費する材料費)を支払うこと。』   |      |    |
| 授業外学習 | ・実習授業前には、あらかじめ教材資料を配布するので、必ず事前に予習しておくこと。<br>・授業内で、中間試験をはじめ、小テスト(実技・筆記)を実施するので、授業内容の復習を行なっておくこと。<br>・全授業においてレポートや課題を提出するが、未完成の場合は完成させて翌授業の開始前に提出する。<br>・欠席によって取り組めなかった課題は、後日必ず作成して提出する。尚、実習授業の場合は、後日代替課題の指示があるので、期限内に必ず仕上げて提出する。   |      |    |
| 教科書   | ①平成27年度版「わたしたちの家庭科 小学校5・6」(開隆堂)<br>②「小学校学習指導要領解説 家庭科編」(文部科学省)   |      |    |
| 参考書   | 小学校学習指導要領 ・ 他は授業中に適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | ・毎回の授業時の課題(レポート・製作作品など) 45%<br>・授業内テスト(筆記・実技) 40%<br>・授業への参加態度 15%<br>※本科目は、90分で完結の実習が多いが、それを含む毎回の授業で提出する課題の評価配点が高い。そこで、毎回時間厳守で出席して、積極的に取り組むこと。   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教科体育  |      |    |
| 教員名   | 松田 光弘   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 体育科教育に関する基礎的な知識を習得できる   |      |    |
| 授業概要  | 体育科の目標や計画, 学習内容, 授業づくり, 学習指導, 評価などについて, 体育に関する文献を購読し, ディスカッション形式で進め理解を深めていく。また, 現在の学校体育における課題についても焦点をあて, その解決の方向性について検討していく。  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 オリエンテーション<br>第 2 回 体育科教育学の概要<br>第 3 回 学習指導要領にみる体育目標<br>第 4 回 体育科の教育課程とカリキュラム<br>第 5 回 体育科の学習内容<br>第 6 回 体育科の教材と教具<br>第 7 回 体育学習指導の具体的進め方<br>第 8 回 体育授業における指導技術<br>第 9 回 体育授業における学習評価<br>第 10 回 体育の授業づくり① (個人種目)<br>第 11 回 体育の授業づくり② (集団種目)<br>第 12 回 学校体育における課題① (体力低下問題)<br>第 13 回 学校体育における課題② (体育の学力とその育成)<br>第 14 回 学校体育における課題③ (体育授業と部活動)<br>第 15 回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とする。また, 後期授業科目の体育指導法に繋がることを踏まえ, 調査検討および発表も含めた授業展開を行う。   |      |    |
| 授業外学習 | ①学習指導要領を深く理解するために, 学年, 種目ごとに内容をまとめる。<br>②学習状況を確認するためのミニレポートを実施する。   |      |    |
| 教科書   | 「体育科教育学入門」高橋健夫ほか 大修館書店  |      |    |
| 参考書   | 「中学校学習指導要領解説保健体育編」文部科学省   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 50%, 課題レポート 50%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 子ども健康学  |      |    |
| 教員名   | 安部 恵子   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 子どもの心身の発育発達特性を理解し、対象およびめあてにそった指導案の作成ができる。   |      |    |
| 授業概要  | 現在の子ども健康に関する諸問題は深刻であり、その解決には子どもの発達特性を知った上で小学校保健授業を実施する必要がある。本講義では、子どもの体力・運動能力特性を学んだ上で、小学校指導要領を基に保健授業の指導案作成と指導を模擬授業形式で実践する。また、子どもの身体的特性を学び呼吸器系・循環器系・神経系の発達と各種運動が生体にどのような影響を及ぼすのかを学習し保健教育の重要性を学ぶ。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 本講義の目的と評価基準について<br>第2回 児童の発育発達特性について(呼吸器・循環器・神経)<br>第3回 小学校保健授業の目的と内容について(模擬授業担当決め)<br>学年別、単元別に指導案作成<br>第4回 指導案作成について<br>第5回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践①と振り返り<br>第6回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践②と振り返り<br>第7回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践③と振り返り<br>第8回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践④と振り返り<br>第9回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑤と振り返り<br>第10回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑥と振り返り<br>第11回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑦と振り返り<br>第12回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑧と振り返り<br>第13回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑨と振り返り<br>第14回 作成した指導案をもとに模擬授業の実践⑩と振り返り<br>第15回 総括 |      |    |
| 授業方法  | 講義および模擬授業の実施を行う。  |      |    |
| 授業外学習 | 毎回の模擬授業の単元ごとに、各学年、各単元の指導要領を読み解き学習準備を行う  |      |    |
| 教科書   | 教科書 「新しいほけん3・4年生」 / 「新しい保健5・6年生」東京書籍  |      |    |
| 参考書   | 特になし  |      |    |
| 評価方法  | 評価方法 取り組み状況 60% 指導案作成 20% 模擬授業指導力 20%   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 子ども英語教育法   |      |    |
| 教員名   | 吹原 顕子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語活動の目標を理解し、単元目標から逆算した指導計画を作成することができる。</li> <li>・学習評価について学び、評価規準及び評価方法を示した学習指導案を作成することができる。</li> <li>・目的に応じた活動を行い指導することができる。</li> <li>・小学校6年生に適切な英語を用いて児童にモデルを示すことができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>最初に、『学習指導要領解説』やインターネット上の資料等を用いて、学習指導要領、評価、外国語活動を支える理論について学ぶ。授業ビデオの分析、活動の体験を通して授業のイメージを持つ。さまざまな教材を用いた指導法を知り、必要なクラスルーム・イングリッシュを身につける。次に、外国語活動教材『Hi, friends! 2』のLesson 5 Let's go to Italy.を取り上げる。4時間構成の単元の中で、それぞれの授業の目的に応じた活動を体験することを通して指導法を学ぶ。また、電子黒板を使用し、ICTを活用した授業を体験する。</p> <p>最後に、自分の住んでいる町を紹介する単元を考える。単元最後の活動のデモンストレーションを各自で考え発表する。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 小学校への外国語活動導入の理念と目的</p> <p>第02回 学習指導要領とカリキュラムづくり</p> <p>第03回 学習指導案の具体例と評価【小テスト1】</p> <p>第04回 授業の実際と授業分析</p> <p>第05回 歌、チャンツの活用</p> <p>第06回 絵本の活用、クラスルーム・イングリッシュ【小テスト2】</p> <p>第07回 コミュニケーション、自己表現活動</p> <p>第08回 模擬授業1 (4時間構成の単元の1時間目：導入と聞く活動を中心とした授業)、アクティビティ</p> <p>第09回 模擬授業2 (4時間構成の単元の2時間目：音に慣れる活動を中心とした授業)、アクティビティ【小テスト3】</p> <p>第10回 模擬授業3 (4時間構成の単元の3時間目：自分のものにする活動を中心とした授業)、アクティビティ</p> <p>第11回 模擬授業4 (4時間構成の単元の4時間目：言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)、アクティビティ</p> <p>第12回 「自分の町を紹介しよう」デモンストレーションと指導計画の作成【小テスト4】</p> <p>第13回 「自分の町を紹介しよう」デモンストレーション発表練習、発表(前半)</p> <p>第14回 「自分の町を紹介しよう」デモンストレーション発表(後半)</p> <p>第15回 小学校と中学校の連携、今後の英語教育</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義及び演習。理論と活動を通して実践的に外国語活動の指導法を学ぶ。発表を行う。  |      |    |
| 授業外学習 | インターネット上の資料をダウンロードして印刷する。インターネット上の音声教材を利用してクラスルーム・イングリッシュを練習する。授業で練習した歌や活動を、クラスルーム・イングリッシュを使って指導できるように復習・練習する。簡単な英語で自分の町を紹介できるように、情報や写真等を集め、使用する英語を考える。  |      |    |
| 教科書   | <p>(1) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 文部科学省, 2008年</p> <p>(2) 『Hi, friends! 2』 東京書籍, 2012年</p> <p>(3) プリント。教室で配付する。</p>  |      |    |
| 参考書   | 『小学校英語教育法入門』 樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子(編著) 研究社, 2013年   |      |    |
| 評価方法  | 授業への取り組み(20%)、課題(40%)、発表(20%)、授業内でのテスト(4回)(20%)  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教職に関する科目（中学校一種（英語））

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育原理  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | 幼稚園・小学校教員をめざす学生に必要な資質・能力のうち次の2点について育成する。<br>(1) 教育の理念・教育史・教育思想の基礎的知識を習得する。<br>(2) 現在の教育問題の背景を幅広い視点から考えられるようになる。   |      |    |
| 授業概要  | 「教育とは何か」という問いについて考える。それは「人間にとって教育は必要か」と問うことでもある。授業の終わりには、「学校教育は必要か」という問いに受講生が答えることができるようになることをめざす。<br>考える手立てとして、次の2つの方法をとる。<br>(1) 西洋と日本の教育思想を学ぶ。<br>(2) 授業外課題として、新聞の切り抜き記事にもとづくコメント作成をおこなう。<br>新明解国語辞典（三省堂）によるなら、「原理」とは「多くの物事がそれによって説明することができる」と考えられる根本的な理論」のことである。各   |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション<br>第02回 人間に教育は必要か；カントとポルトマンを中心に<br>第03回 西洋教育史（古代）：ソクラテスとプラトンの教育思想<br>第04回 西洋教育史（中世）：中世の教育と大学の発生<br>第05回 西洋教育史（近世）：ルターとコメニウスの教育思想<br>第06回 西洋教育史（近代）：ルソー、ペスタロッチ、フレーベルの教育思想<br>第07回 西洋教育史（近代）：近代公教育の成立と民衆教育<br>第08回 西洋教育史（現代）：新教育と現代の教育<br>第09回 日本教育史（近世）：近世の教育と教育思想<br>第10回 日本教育史（近代）：学制の成立から国家主義の時代へ<br>第11回 日本教育史（現代）；戦後教育と教育改革<br>第12回 学校を取り巻く環境の変化と教育<br>第13回 子育てと家庭・地域<br>第14回 グローバリズムと教育<br>第15回 まとめ：人間と教育 |      |    |
| 授業方法  | ペアやグループによるディスカッション、発表等の言語活動をふくむ演習的な方法を随時とり入れた講義。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業配布プリントについて定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(2) 教科書について定期的にレポート課題を示す。締切までにレポートを提出すること。<br>(3) 教科書について定期的に小テストを実施する。復習しておくこと。<br>(4) 「新聞レポート」を自由課題とする。新聞の教育関係記事を読み、切り抜いて貼り、要旨とコメントを書いて提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養 I 教育原理・教育史』七賢出版   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文（3%×15回=45%）＋定期小テスト（30%）＋レポート（25%）<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育心理学  |      |    |
| 教員名   | 永井 明子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員にとって必要な教育心理学の知識を得る</li> <li>・具体的な事例を知ることにより教員志望の意欲を高める</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>将来教育・保育に携わる学生が教育・保育について学ぶ科目の一つである。乳幼児・児童・生徒がその潜在的能力を実現していくためには周囲の大人の支援が重要である。教育現場でその任を担う者として彼らの特質をよく理解するため、その発達、学習の過程や支援方法、動機付け、人格と適応、教育評価、学級集団などについて発達心理学・学習心理学・人格心理学などの基礎的な心理学的知見をもとに学んでいく。また、特別支援教育についても取り上げる。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：オリエンテーション<br/> 第2回：人間発達の理解（1）－発達とは何か・原理・規定因－<br/> 第3回：人間発達の理解（2）－発達理論－<br/> 第4回：乳・幼児期の理解－乳・幼児期の心理－<br/> 第5回：児童期・青年期の理解－身体・知能・言語・社会性・人格の発達－<br/> 第6回：学習の理解（1）－学習とは何か・成立過程－<br/> 第7回：学習の理解（2）－学習成立の条件－<br/> 第8回：学習成果の保持と転移－記憶とは何か・忘却のメカニズム－<br/> 第9回：授業の心理－理論・形態・最適化－<br/> 第10回：教育評価の方法－視点・目的と時期・学力テスト・知能テスト－<br/> 第11回：教育データの収集と分析－方法・教育統計－<br/> 第12回：学校適応－いじめ・不登校・人間関係－<br/> 第13回：発達障害（1）－知的障害・自閉症・高機能広汎性発達障害－<br/> 第14回：発達障害（2）－学習障害・注意欠陥・多動性障害－<br/> 第15回：まとめ<br/> 期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | グループディスカッション・簡単な実験等も取り入れる。   |      |    |
| 授業外学習 | <p>①授業で習った内容について一つ選び、それを具体的に説明できるような事例（自分が小さな頃の思い出やボランティア・インターンシップ等での観察、本やテレビドラマのエピソードなど）をミニレポートにして提出。</p> <p>②新聞から教育や発達に関する記事を選びコピーし、内容を要約した上でコメントしたものを提出。</p> <p>③授業の範囲を予習し、予習ノートを作ったものを提出。</p>  |      |    |
| 教科書   | 西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』ナカニシヤ出版   |      |    |
| 参考書   | 東京アカデミー 教職教養Ⅱ 『教育心理学』<br>サイエンス社 心理学ベーシックライブラリ 5-I 『教育心理学Ⅰ：発達と学習』   |      |    |
| 評価方法  | ミニレポート 50%・期末試験 50%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育行政学  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1) 学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論や基礎知識を習得できる。<br>(2) 教育行政の仕組みや教育法規を現実の状況と関係させて理解することができる。   |      |    |
| 授業概要  | この授業は、学校教育の社会的・制度的・経営的側面について広く必要な知識を獲得することを目的としている。教育行政の仕組みや教育法規の構成についてその基本的確に理解できるようにするほか、特に憲法、教育基本法、学校教育法等について、現在社会の状況や教育改革、現場の実際とあわせて理解できるように授業を行う。   |      |    |
| 授業計画  | 第01回 オリエンテーション；教育行政学とは何を学ぶのか<br>第02回 法と行政についての基礎<br>第03回 教育法規の体系と日本国憲法<br>第04回 教育基本法その1（教育の目的関連）／定期小テスト1<br>第05回 教育基本法その2（教育行政関連）<br>第06回 教育行政における現代的課題<br>第07回 学校に関する法規と学校経営<br>第08回 学校教育に関する法規その1（学校教育法関連）／定期小テスト2<br>第09回 学校教育に関する法規その2（学校教育法施行規則関連）<br>第10回 児童・生徒・子どもに関する法規その1（「子どもの権利」関連）<br>第11回 児童・生徒・子どもに関する法規その2（児童福祉法ほか）<br>第12回 教職員に関わる法規その1（教育公務員特例法ほか）／定期小テスト3<br>第13回 教職員に関わる法規その2（教育職員免許法ほか）<br>第14回 教育委員会<br>第15回 社会教育・家庭教育と教育行政／定期小テスト4 |      |    |
| 授業方法  | 講義を中心に行う。  |      |    |
| 授業外学習 | (1) 授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書（学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト）、授業で配布する補助プリント等を学習すること。<br>(2) 定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。   |      |    |
| 教科書   | 東京アカデミー編『教職教養Ⅱ教育心理学 教育法規』七賢出版  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介します。   |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文（3%×15回＝45%）＋定期小テスト（30%）＋レポート（25%）<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育課程論 (中)   |      |    |
| 教員名   | 佃 繁   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | (1)義務教育学校の教育課程に関する基本的概念を理解できる。<br>(2)教育課程の対象方法を説明できる。<br>(3)学習指導要領に従い教育課程の編成を試みることが出来る。<br>(4)学習指導要領の変遷と社会状況との関わりについて理解する。  |      |    |
| 授業概要  | (1)教育課程 (カリキュラム) とは何かについての原理的な説明をする。<br>(2)教育課程の原理と原則について解説する。<br>(3)教育課程の基準である学習指導要領について、その特徴と変遷について説明する。<br>(4)各学校の教育課程編成の具体的なプランの作成を試みる。   |      |    |
| 授業計画  | 第 01 回 オリエンテーション (授業の目標と形態、評価方法について)<br>第 02 回 教育課程とは何か、その歴史について<br>第 03 回 教育課程とカリキュラムの違いについて<br>第 04 回 教育課程編成の基本的視点 (その 1) 学問の系統性<br>第 05 回 教育課程編成の基本的視点 (その 2) 子どもの発達段階<br>第 06 回 教育課程編成の基本的視点 (その 3) 社会の教育的要請<br>第 07 回 中間まとめとディスカッション<br>第 08 回 教育課程編成と学習指導要領の関係性<br>第 09 回 学習指導要領の歴史的変遷<br>第 10 回 現行の学習指導要領の特徴<br>第 11 回 学習指導要領の総則について<br>第 12 回 各教科の目標と内容について<br>第 13 回 各学校における教育課程編成上の課題について<br>第 14 回 学校における教育課程編成を試みる<br>第 15 回 まとめとディスカッション |      |    |
| 授業方法  | 講義形態を基本としつつもなるだけ質問、ディスカッションの機会を設ける。   |      |    |
| 授業外学習 | (1)授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書 (学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト)、授業で配布する補助プリント等を学習すること。<br>(2)定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。   |      |    |
| 教科書   | (1)中学校学習指導要領<br>(2)中学校学習指導要領解説・総則編<br>(3)東京アカデミー編『教職教養Ⅰ教育原理・教育史』七賢出版<br>(4)東京アカデミー編『教職教養Ⅱ教育心理・教育法規』七賢出版   |      |    |
| 参考書   | 特に指定しない。  |      |    |
| 評価方法  | 毎回の授業小作文 (3%×15 回=45%) + 定期小テスト (30%) + レポート (25%)<br>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。<br>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育方法の理論と実践（中）（B12・B13）／教育方法の研究（B10・B11）   |      |    |
| 教員名   | 石原 陽子・蔵田 實  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 教育の方法・技術に関する理論と実践について学び、教育理論に基づく効果的な教育方法と技術を身につける。  |      |    |
| 授業概要  | 授業の原理、授業の分析・評価などについて近代的教育方法論の成立と展開を踏まえて概観する。その上で、現代の新しい教育実践例をいくつか挙げ、メディアリテラシー、効果的なメディア教材・教具の活用方法等、今日的な内容も取り入れ、学習指導要領に言及しながら新しい教育方法を探る手がかりを演習形式で実施する。また、受講者による模擬授業を行い、実践的な観点から教育方法のあり方を習得させる。  |      |    |
| 授業計画  | 第1回：オリエンテーション；教育のねらい<br>第2回：学習指導のあり方と学習指導要領<br>第3回：授業の基本的性格と特質<br>第4回：授業の方法と技術（1）一斉授業<br>第5回：指導授業の方法と技術（2）小集団共同学習指導<br>第6回：授業の方法と技術（3）チームティーチング<br>第7回：評価法のあり方<br>第8回：教材・教具のあり方<br>第9回：「教育の情報化」とメディアリテラシー<br>第10回：コミュニケーションとメディア<br>第11回：メディアの活用方法<br>第12回：授業プランの作成（1）<br>第13回：授業プランの作成（2）<br>第14回：授業プランの検証<br>第15回：期待される授業方法：まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義とプレゼンテーションおよび模擬授業   |      |    |
| 授業外学習 | 指定したテキストを事前に読んでおくこと。第7回と第13回に小テストを行なうので、それまでの授業内容を復習すること。プレゼンテーションおよび模擬授業の準備をすること。  |      |    |
| 教科書   | 学習指導要領および「教育方法学」岩波書店  |      |    |
| 参考書   | 授業で適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 小テスト40%、発表20%、模擬授業20%、授業参加度20%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 英語科教育法 1   |      |    |
| 教員名   | 中村 真由美   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 2 回  | 単位数  | 4  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | ・英語教員に求められる専門的な知識に関する理解を深めるとともに、英語の授業を行うにあたって必要とされる基本的な技能の習得を図る。   |      |    |
| 授業概要  | 英語科教育の理論的側面から、学習指導要領、英語教授法、第二言語習得、国際理解教育、学習者論、早期英語教育等の今日的諸課題について取り上げる。同時に、受講者一人ひとりが指導案を作成し、それをもとに模擬授業を行い、「コミュニケーション能力の育成」を図る英語指導のあり方について、多角的に考察を加える。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 オリエンテーションおよび英語科教育とは何か<br>第2回 英語教員の役割と要件<br>第3回 日本の英語教育史<br>第4回 学習指導要領の現状<br>第5回 学習指導要領の課題<br>第6回 言語材料の内容<br>第7回 言語材料の取り扱い<br>第8回 小学校外国語活動<br>第9回 国際理解教育<br>第10回 学習者論<br>第11回 第一言語習得と第二言語習得<br>第12回 英語教授法—文法訳読法<br>第13回 英語教授法—オーラルメソッド<br>第14回 英語教授法—コミュニケーション・アプローチ<br>第15回 中学校英語の指導<br>第16回 中学校英語教育の展開<br>第17回 学習指導案の取り扱い<br>第18回 学習指導案の作成<br>第19回 理論編のまとめとテスト<br>第20回 模擬授業の実践 (第1グループ)<br>第21回 模擬授業の講評 (第1グループ) と模擬授業の実践 (第2グループ)<br>第22回 模擬授業の講評 (第2グループ) と模擬授業の実践 (第3グループ)<br>第23回 模擬授業の講評 (第3グループ) と模擬授業の実践 (第4グループ)<br>第24回 模擬授業の講評 (第4グループ) と模擬授業の実践 (第5グループ)<br>第25回 模擬授業の講評 (第5グループ) と模擬授業の実践 (第6グループ)<br>第26回 模擬授業の講評 (第6グループ) と模擬授業の実践 (第7グループ)<br>第27回 模擬授業の講評 (第7グループ) と模擬授業の実践 (第8グループ)<br>第28回 模擬授業の講評 (第8グループ) と模擬授業の実践 (第9グループ)<br>第29回 模擬授業の講評 (第9グループ) と模擬授業の実践 (第10グループ)<br>第30回 模擬授業の講評 (第10グループ) |      |    |
| 授業方法  | 講義とプレゼンテーション、模擬授業  |      |    |
| 授業外学習 | ・該当章の復習レポートを書くこと。<br>・模擬授業の準備をすること。<br>・小テストに備えること。<br>・英検準2級程度の英語力を各自、身につけておくこと。  |      |    |
| 教科書   | 学習指導要領<br>JACET 教育問題研究会『新しい時代の語科教育の基礎と実践』三修社、2012年   |      |    |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 復習レポート(20%)、模擬授業(30%)、テスト(50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 英語科教育法2   |      |    |
| 教員名   | 中村 真由美  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週2回   | 単位数  | 4  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | ・英語科教育法1の学習内容を踏まえ、英語教員に求められる専門的な知識に関する理解を深めるとともに、英語の授業を行うにあたって必要とされる実践的な技能の習得を図る。   |      |    |
| 授業概要  | 英語科教育法1に続き、英語科教育の理論的な側面から、コミュニケーション論、音声指導、語彙指導、文法指導、テストと評価、教室の使用言語等の今日的課題について取り上げる。同時に、受講者一人ひとりが模擬授業を行い、より発展的な「コミュニケーション能力の育成」を図る英語指導のあり方について、総合的な授業力を習得する。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 英語科教育の指導目標と学習指導要領<br>第2回 コミュニケーション能力の育成<br>第3回 発音指導のあり方<br>第4回 文字指導のあり方 フォニックスの指導<br>第5回 語彙指導のあり方<br>第6回 文法指導のあり方<br>第7回 辞書指導のあり方<br>第8回 リスニング指導法<br>第9回 スピーキング指導法<br>第10回 リーディング指導法<br>第11回 ライティング指導法<br>第12回 ティームティーチングのあり方<br>第13回 テストと評価<br>第14回 オーラルコミュニケーションのねらい<br>第15回 オーラルコミュニケーションの指導<br>第16回 実践編のまとめとテスト<br>第17回 高等学校英語の指導<br>第18回 教室の使用英語<br>第19回 学習指導案の作成<br>第20回 模擬授業の実践 (第1グループ)<br>第21回 模擬授業の講評 (第1グループ) と模擬授業の実践 (第2グループ)<br>第22回 模擬授業の講評 (第2グループ) と模擬授業の実践 (第3グループ)<br>第23回 模擬授業の講評 (第3グループ) と模擬授業の実践 (第4グループ)<br>第24回 模擬授業の講評 (第4グループ) と模擬授業の実践 (第5グループ)<br>第25回 模擬授業の講評 (第5グループ) と模擬授業の実践 (第6グループ)<br>第26回 模擬授業の講評 (第6グループ) と模擬授業の実践 (第7グループ)<br>第27回 模擬授業の講評 (第7グループ) と模擬授業の実践 (第8グループ)<br>第28回 模擬授業の講評 (第8グループ) と模擬授業の実践 (第9グループ)<br>第29回 模擬授業の講評 (第9グループ) と模擬授業の実践 (第10グループ)<br>第30回 模擬授業の講評 (第10グループ) |      |    |
| 授業方法  | 講義とプレゼンテーション、模擬授業   |      |    |
| 授業外学習 | ・該当章の復習レポートを書くこと。<br>・模擬授業の準備をすること。<br>・小テストに備えること。<br>・英検2級程度の英語力を各自、身につけておくこと。  |      |    |
| 教科書   | 学習指導要領<br>JACET 教育問題研究会『新しい時代の語科教育の基礎と実践』三修社、2012年  |      |    |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 模擬授業(30%)、ピアフィードバック(20%)、レポート(30%)、テスト(20%)   |      |    |
| 既修条件  | 英語科教育法1   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 道徳教育の理論と実践（中）（B12・B13）／道徳教育の理論と実践（B10・B11）  |      |    |
| 教員名   | 佃 繁   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>(1) 中学校段階の道徳教育の内容と方法に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>(2) 学習指導案作成、模擬授業を通して生徒の反応を想定した指導の基礎を習得する。</p>   |      |    |
| 授業概要  | <p>中学校学習指導要領によるなら、道徳教育は、学校の教育活動全体を通じて行われ、道徳的な心情や判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うことを目的としている。この授業では次の4つの問いについて学ぶ。</p> <p>(1) 道徳とは何か。なぜ道徳教育は必要なのか。</p> <p>(2) 道徳教育で何を教えるか（内容）。</p> <p>(3) 道徳をどうやって教えるか（方法）。</p> <p>(4) 日本において学校教育と道徳教育はどのような関係にあるか。</p> <p>中央教育審議会答申（2008）では、国際社会における競争と共生に対応しうる「開かれた個」の必要を説いている。(1)～(4)を通して、グローバルズムと道徳教育との関わりについて考えるための基礎を学ぶ。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 オリエンテーション：道徳教育をふり返る。</p> <p>第02回 道徳とは何か。教育における道徳性の位置づけを知る。</p> <p>第03回 道徳教育の歴史</p> <p>第04回 学習指導要領の変遷と道徳教育／定期小テスト1</p> <p>第05回 学習指導要領に見る道徳教育の構造</p> <p>第06回 道徳教育と人権教育1（日本）</p> <p>第07回 道徳教育と人権教育2（世界）</p> <p>第08回 道徳教育の手法を学ぶ：理論／定期小テスト2</p> <p>第09回 道徳教育の手法を学ぶ：読み物教材</p> <p>第10回 道徳教育の手法を学ぶ：モラル・ジレンマ</p> <p>第11回 道徳教育の手法を学ぶ：参加型学習の基本</p> <p>第12回 道徳教育の手法を学ぶ：多様性の承認／定期小テスト3</p> <p>第13回 教科等における道徳教育</p> <p>第14回 道徳の授業指導案作成と模擬授業1（読み物教材）</p> <p>第15回 道徳の授業指導案作成と模擬授業2（参加型学習）／定期小テスト4</p> |      |    |
| 授業方法  | ディスカッション、模擬授業の演習的方法をとり入れた講義   |      |    |
| 授業外学習 | <p>(1) 授業で実施する小テスト、中間テストについて、教科書（学習指導要領、学習指導要領解説、指定テキスト）、授業で配布する補助プリント等を学習すること。</p> <p>(2) 定期的に中間レポート課題とその学習方法を示す。授業外で学習し、レポートを締切までに提出すること。</p>   |      |    |
| 教科書   | 中学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説「道徳編」  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | <p>毎回の授業小作文（3%×15回＝45%）＋定期小テスト（30%）＋レポート（25%）</p> <p>◆毎回の授業小作文は字数が多いほど高い点数をつける。</p> <p>◆小テストは教科書と補助プリントから出題する。</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 特別活動論 (中) (B12・B13) / 特別活動論 (B10・B11)   |      |    |
| 教員名   | 磯島 秀樹   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | 1. 特別活動の意義と課題、方法、歴史的変遷、目標、内容について理解する。<br>2. 特別活動の評価について理解する。<br>3. 特別活動に関する実践的指導力の基礎を培う。  |      |    |
| 授業概要  | 特別活動は、「望ましい集団活動」を通して、「心身の調和のとれた発達」、「個性の伸長」、「集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築く」などの「自主的、実践的な態度」を育て、「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力」を養うことを目標とする教育活動である。本授業では、特別活動の意義と課題、方法、歴史的変遷、目標、内容（学級活動、生徒会活動、学校行事）、さらに特別活動と各教科・総合的な学習の時間・道徳等との関連や特別活動の評価について概説する。また、特別活動の教材研究や特別活動の指導案の作成及び模擬授業を通して、実践的指導力の基礎を培うことを目指す。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 はじめにー「特別活動」を振り返るー<br>第2回 特別活動の教育的意義と実践的課題<br>第3回 特別活動の方法<br>第4回 特別活動の歴史的変遷<br>第5回 学級活動(1) 目標と内容<br>第6回 学級活動(2) 事例研究<br>第7回 生徒会活動(1) 目標と内容<br>第8回 生徒会活動(2) 事例研究<br>第9回 学校行事(1) 目標と内容<br>第10回 学校行事(2) 事例研究<br>第11回 特別活動と各教科・総合的な学習の時間・道徳等との関連<br>第12回 特別活動と生徒指導、特別活動の評価<br>第13回 特別活動の指導案の作成と教材研究<br>第14回 特別活動の模擬授業<br>第15回 まとめと小テスト |      |    |
| 授業方法  | 講義、事例研究、グループワーク   |      |    |
| 授業外学習 | 授業で指示する。  |      |    |
| 教科書   | 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』ぎょうせい   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 (50%)、課題レポート・小テスト等 (50%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 生徒・進路指導論（中）（B12・B13）／生徒・進路指導論（B10・B11）  |      |    |
| 教員名   | 竹内 和雄   |      |    |
| 授業種別  | 集中授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  |   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の理論及び方法を学ぶこと。</li> <li>2. 進路指導の理論及び方法を学ぶこと。</li> <li>3. 教員として必要な資質を身につけること。</li> </ol>  |      |    |
| 授業概要  | <p>本授業は、生徒指導・進路指導について、基礎的なところから、実際に教職に就いた時に必要な事柄までを体験的に修得することをめざす。学校の問題はますます複雑化、多様化しているので、学生自身の狭い経験だけでなく、多くの意見に触れる必要があるため、本授業では、グループワークやロールプレイングを重視し、より実践的な能力が獲得できるようにする。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 今日の学校現場の諸問題</li> <li>3. 生徒指導の基本的な考え方</li> <li>4. 一次支援、二次支援、三次支援</li> <li>5. 特別支援教育と生徒指導</li> <li>6. いじめの実態とその対応</li> <li>7. 不登校の実態とその対応</li> <li>8. 子どもたちのネット問題の実態とその対応</li> <li>9. 非行・暴力の実態とその対応</li> <li>10. ロールプレイで学ぶ生徒指導と解説</li> <li>11. 進路指導の現状</li> <li>12. 進路指導の課題</li> <li>13. 進路指導とキャリア教育</li> <li>14. ロールプレイで学ぶ生徒指導と解説</li> <li>15. まとめ（生徒指導・進路指導の今後のあり方の検討）</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | <p>担当教員からの講義のあと、できるだけ学生同士が議論する場を設けるつもりである。基本的には、「講義→グループ討議→発表→全体討議」の形で構成するつもりである。</p>   |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業の復習とともに、学んだ内容について自分の考えをまとめておく。</li> <li>・授業開始前に教科書の当該箇所を読んでおく。</li> <li>・日常生活の様々な場面で、学校教育について考えておく。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | <p>スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談 竹内和雄著 ほんの森出版 2014年。<br/>（授業で頻繁に使用するので、事前に読んでおくことが望ましい）</p>   |      |    |
| 参考書   | <p>ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法 池島徳大監修著・竹内和雄著 ほんの森出版 2011。<br/>その他は、講義中に適宜指示する。</p>  |      |    |
| 評価方法  | <p>コメントカードの内容、授業への貢献度等を総合的に評価する。</p>  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教育相談 (中) (B12・B13) / 教育相談 (B10・B11)   |      |    |
| 教員名   | 中村 健  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の意義がわかる</li> <li>・自己・他者理解及びその交互作用をカウンセリング技法から学び、用いることができる</li> <li>・基礎・基本的な教育相談の実践を行うことができる</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>今日の学校教育臨床では、教師相互はもとより、保護者やスクールカウンセラーをはじめとする専門家・地域の人々等とかがかり合い、つながり合って、子どもの成長を育み、指導・援助していくことが求められている。</p> <p>そこでこの授業ではまず、学校教育相談における予防的・開発的・治療的教育相談について概説した上で、カウンセリングの理論・技法を体験的に学ぶ。</p> <p>そして、いじめ・不登校等のいわゆる不適応事象のみでなく、日常的な学校教育場面での学習面、心理・社会面、進路面、健康面にかかわる事象に関する事例やスクールカウンセラー</p>   |      |    |
| 授業計画  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに ―学校教育相談とは―</li> <li>2. 構成的グループ・エンカウンターと関係づくり</li> <li>3. 学校教育相談の領域</li> <li>4. 予防・開発的学校教育相談と治療的教育相談</li> <li>5. 指導と援助について</li> <li>6. 生徒・保護者理解について</li> <li>7. 生徒・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法 1 ―「聞く」と「聴く」―</li> <li>8. 生徒・保護者とのかかわりとカウンセリングの技法 2 ―「聴く」と「訊く」―</li> <li>9. ブリーフ・セラピーの活用</li> <li>10. 学校内外での連携と協働</li> <li>11. コンサルテーションとコーディネーション</li> <li>12. 教育臨床場面でのチーム支援の実際</li> <li>13. 日米のスクールカウンセリング活動の相違</li> <li>14. 教師とスクールカウンセラーの関係</li> <li>15. まとめと課題・授業内テスト</li> </ol> |      |    |
| 授業方法  | 講義のみでなく、ソーシャル・スキル・トレーニング、構成的グループ・エンカウンター、ブリーフ・セラピー等の実習も行う。  |      |    |
| 授業外学習 | 毎回、授業の振り返りや予習課題等を指示する   |      |    |
| 教科書   | 伊藤美奈子・春日井敏之編著 中村健 他著「よくわかる教育相談」 ミネルヴァ書房 2011  |      |    |
| 参考書   | 講義中、適宜紹介する  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度 25%・講義中のミニレポート 25%・テスト 50%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 教育実習指導 (中)   |      |    |
| 教員名   | 中村 真由美   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切に授業実習を行えることを目指す。</li> <li>・授業実習後に体験について討議し、成果と課題を整理することができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>教育者を目指す心構えを養い、「教育実習」での英語教科に関する指導案の立案及び指導法や学級活動、課外活動についての事前の準備を行うことを目的とする。各自が実習課題を明確にして実習に臨み、自分自身の授業への考え方を深める。また、実習に対する不安を解消する過程を通して学生の学習意欲の充実を図るとともに、教育現場での責任ある行動とは何かを学び、必要とされるマナーをも身につけるよう指導する。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 「英語科教育法1・2」における演習の再チェックおよび補強<br/> 第2回 教案作成の流れ<br/> 第3回 教材例と指導案の検討<br/> 第4回 教材研究<br/> 第5回 教育実習生の研究授業についての検討<br/> 第6回 模擬授業の相互チェック (グループ1)<br/> 第7回 模擬授業の相互チェック (グループ2)<br/> 第8回 模擬授業の相互チェック (グループ3)<br/> 第9回 教壇実習のリフレクションについて<br/> 第10回 研究授業の合評会について<br/> 第11回 報告書の作成<br/> 第12回 報告書についての指導<br/> 第13回 教育実習発表会 (グループ1)<br/> 第14回 教育実習発表会 (グループ2)<br/> 第15回 発表後の指導とまとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義とプレゼンテーション   |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材について、授業を担当する該当ページだけでなく、教科書の全体構成、各課のねらい、学習内容の特徴を研究する。</li> <li>・指導細案を十分練り上げて作成する。</li> <li>・教壇実習、研究授業の合評会におけるフィードバックを記録し、実習後の報告書を作成する。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | <p>学習指導要領<br/> 教育実習を考える会編『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科 (改訂版)』2011 年、蒼丘書林</p>   |      |    |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 指導細案(30%)、模擬授業(20%)、報告発表(20%)、報告レポート(30%)  |      |    |
| 既修条件  | 「英語科教育法1」「英語科教育法2」「特別活動論 (中)」を履修済みであること。   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 教職実践演習 (幼・小・中)  |      |    |
| 教員名   | 田原 昌子 (幼稚園)   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 4   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <p>・今までに履修した教科に関する科目・教職に関する科目やさまざまな活動を通して身につけた資質能力が、実践現場で幼稚園教員・保育士としていかに生かされていくのか、知識・能力・実践的指導力がいかに身についてきたか、最終的に確認することができる。</p> <p>・幼稚園教員志望者として、自己の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、実践的指導力を身につけることができる。</p>   |      |    |
| 授業概要  | 教職課程履修カルテを基に自己評価し、自己課題を明確にする。幼稚園教員としての使命や子どもへの責任の理解、子どもの発達や心身の理解、クラス経営、保育・教育の専門知識と保育の指導法、地域や他校種との連携について、グループ討議・事例研究・模擬保育を通して学ぶ。   |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 「教職実践演習」の目的、意義、授業進行の説明</p> <p>第02回 「教職課程履修カルテ」に基づく教育実践力の自己評価</p> <p>第03回 子どもの発達・心身の状況理解</p> <p>第04回 幼稚園と家庭・保護者及び地域との連携</p> <p>第05回 他校種(保育所・小学校)との連携</p> <p>第06回 教職員の協働</p> <p>第07回 特別支援教育への理解</p> <p>第08回 育てたい子ども像とクラス経営</p> <p>第09回 実践現場の調査</p> <p>第10回 実践現場を基にした発表</p> <p>第11回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第12回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第13回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第14回 保育実践の事例研究・指導案に基づく模擬保育</p> <p>第15回 まとめと教育実践力の自己最終評価</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義・グループ討議・事例研究・模擬保育等を取り入れ展開する。  |      |    |
| 授業外学習 | <p>・毎回の授業テーマについて、自分自身の考えを整理しておくこと。</p> <p>・毎回の授業内容とディスカッションの内容に関する考察をレポートとして提出すること。</p>   |      |    |
| 教科書   | <p>文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2013</p> <p>厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2013</p> <p>内閣府 文部科学省 厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2014</p>   |      |    |
| 参考書   | 増田まゆみ・夜藤誠慈郎 『ワークで学ぶ保育・教育職の実践演習』 建帛社 2014  |      |    |
| 評価方法  | 発表(模擬保育・実践現場報告など)(40%)、保育指導案・事例研究・授業課題の考察レポート(40%)、授業への参加態度(20%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

## ●教科に関する科目（中学校一種（英語））

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 英語学概論   |      |    |
| 教員名   | 中村 真由美  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学・言語学の基礎的知識を得る。</li> <li>・語や文の形成に規則性や法則があることを知る。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>言語の持つ規則性に気づくことをねらいとして、英語の音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を概観する。英語教育への有用性を考慮し、日本語との対照言語学的観点を常に念頭に置く。動詞変化、名詞複数形、発音とスペリングの関係などにおいて、英語に見られる不規則な現象のうち、歴史的な言語変化をたどることによって説明できるものには解説を加え、現代の英語、日本語に見られる言語変化への洞察力を高めることを目指す。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：英語という言語に関するいろいろな疑問<br/> 第2回：音の仕組み 調音器官<br/> 第3回：音の仕組み 母音と子音<br/> 第4回：語の仕組み 形態素<br/> 第5回：語の仕組み 接辞<br/> 第6回：文の仕組み 文法論<br/> 第7回：文法をもとにした文の分析<br/> 第8回：いろいろな意味関係<br/> 第9回：意味をもとにした文の分析<br/> 第10回：ことばと場面<br/> 第11回：ポライトネス<br/> 第12回：英語の歴史 Old English<br/> 第13回：英語の歴史 Middle English<br/> 第14回：英語の歴史 Modern English<br/> 第15回：まとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | おもに講義。受講者の人数によって演習を取り入れる。   |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・その週の課題を復習し、専門用語等の理解をしておくこと。</li> <li>・指定したテキストを読んで要約を提出すること。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | 長谷川瑞穂（編著）『はじめての英語学（改訂版）』研究社、2014年   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 読書課題要約(20%)、復習テスト(50%)、練習課題(30%)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 対照言語学 (B12・B13) / 英語研究 (B10・B11)   |      |    |
| 教員名   | 中村 真由美   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語と日本語を言語類型論の考え方から理解する。</li> <li>・相違点ばかりでなく共通点をも明らかにする。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>二言語間の体系を対照的に研究することによって、両言語の構造に見られる対立点を見いだす。具体的には、日本語と英語を対照し、おもに文法についての考察を行う。言語教育の観点からは、ある言語の話者が、他の言語を学習する場合に起こる困難点を発見、あるいは、説明する方法を考える。また、翻訳の観点からは、母語の表現に対する目標言語の表現として、期待される表現を検討する。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 音節とモーラ<br/> 第2回 ストレスアクセントとピッチアクセント<br/> 第3回 強勢拍リズムと音節拍リズム<br/> 第4回 語の特徴<br/> 第5回 語形成プロセス<br/> 第6回 複合語<br/> 第7回 語順<br/> 第8回 文の情報構造<br/> 第9回 焦点と視点<br/> 第10回 能動文と受動文<br/> 第11回 メタファー<br/> 第12回 ポライトネス<br/> 第13回 依頼表現<br/> 第14回 英語と日本語<br/> 第15回 まとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | おもに講義。受講者の人数によって演習を取り入れる。  |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の復習をし、専門用語の理解をしておくこと。</li> <li>・小テストに備えること。</li> <li>・学習した言語現象を発見すること。</li> <li>・課題レポートを作成すること。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | プリントを配付する。   |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 復習レポート 30%、小テスト 20%、実例報告 20%、課題レポート 30%  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | イギリス文学概論  |      |    |
| 教員名   | 大田垣 裕子  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリス国民の歴史と、社会の発展に密接な関係があるイギリス文学への理解を深める。</li> <li>・アングロ・サクソン時代から20世紀までのイギリスの代表的文学作品を鑑賞する。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | イギリス文学の歴史的流れをつかむ。作品の背景にある思想・文化に目を向け、小説・劇・詩など、作品別に形態やその特徴についても学ぶ。イギリス文学全体を概観し、作品に表れたイギリス人の人生観、世界観の変遷をたどる。イギリス人の生き方を、異なる時代の作家の作品を比較することによって、イギリスを取り巻く社会と文化の変化を考える。映像資料なども参考にして、イギリス人にとっての理想の人間像や社会像について考察し、その特徴を探る。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 イン트로ダクション、アングロ・サクソン時代・古英語 (1)<br>第2回 アングロ・サクソン時代・古英語 (2)<br>第3回 ノルマンの征服・中英語 (1)<br>第4回 ノルマンの征服・中英語 (2)<br>第5回 ルネッサンス時代 (1)<br>第6回 ルネッサンス時代 (2)<br>第7回 ルネッサンス時代 (3)<br>第8回 共和制時代<br>第9回 王政復古時代<br>第10回 ロマン主義時代 (1)<br>第11回 ロマン主義時代 (2)<br>第12回 ヴィクトリア朝時代<br>第13回 20世紀 (1)<br>第14回 20世紀 (2)<br>第15回 まとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義と演習を適宜交えながら進める。   |      |    |
| 授業外学習 | 必ず、前回までの授業のポイントを復習しておく。   |      |    |
| 教科書   | 授業中にプリントを配布する。  |      |    |
| 参考書   | 適宜、授業中に配布する。  |      |    |
| 評価方法  | 期末試験 50%、課題 30%、授業中の取り組み 20%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | アメリカ文学概論  |      |    |
| 教員名   | 朴 瓊韻  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | #NAME?  |      |    |
| 授業概要  | アメリカの植民地時代から 20 世紀までの文学作品について、建国以来の地理的な発展の歴史も含めて概観する。アメリカ建国以来の白人作家の文学作品だけではなく、先住民やアフリカ系アメリカ人など、様々な民族グループの作家の作品にできるだけ多く触れる。また、映像資料等でも多文化社会アメリカの歴史や文化の理解を深める。さらに多文化社会が内包する課題について考察することによって、現代に多文化共生社会を実現するための展望を得る。   |      |    |
| 授業計画  | Class Schedule<br>1. Class Orientation<br>2. American Cultural Characteristics<br>3. Ch. 1 Coming to America<br>4. Ch. 2 The American Revolution: American Romanticism<br>5. Ch. 3 The Constitution<br>6. Visual Material: Review and Discussion<br>7. Ch. 4 Growth and the Civil War: The Rise of Realism<br>8. Ch. 5 20th Century: Modernism<br>9. Ch. 6 Celebrations: Jazz Age<br>10. Visual Material: Review and Discussion<br>11. Ch. 7-8 The Legislature: African American Writers<br>12. Ch. 9 Multiculturalism in American Literature<br>13. Ch. 10 General Review<br>14. Group Presentation<br>15. Individual Presentation |      |    |
| 授業方法  | #NAME?  |      |    |
| 授業外学習 | #NAME?  |      |    |
| 教科書   | Ronna Magy and Yuji Maekawa, USA in a Nutshell: The Least you should know about the USA, Cengage Learning, 2009.  |      |    |
| 参考書   | 早瀬博範他編、「21 世紀から見る アメリカ文学史」 英宝社 2003 年   |      |    |
| 評価方法  | -Class Participation: 10%<br>-Class work: 10%<br>-Presentation: 30%<br>-Homework: 20%<br>-In-class Assessment: 30%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 児童文学論   |      |    |
| 教員名   | 尾崎 靖二   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週1回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1   | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <p>1. 児童文学作品とその読書ストラテジーの関連を考えることができる。</p> <p>2. 児童文学作品の作用構造と読み手の反応構造から一人一人の個性的な読みをどのように生成し得るかを考えることができる。</p> <p>3. 自分の心と体が一体となり、聞き手に伝わるように児童文学作品を朗読することができる。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>はじめに、児童文学の日本篇, 外国篇を概説する。</p> <p>次に作者という観点から児童文学作品・絵本作品を絞って、下記授業計画に記された6グループの作品を読んで、そこで呈示されている構成や表現上の特質、テーマがどのように描かれているかを考察する。</p> <p>最後に各自が授業外学習で読み進めている作品と絡ませながら、自分なりの、質の高いすぐれた絵本に辿り着く。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 : オリエンテーション/ アンケート調査/読書ノートについて</p> <p>第2回 : 児童文学概説</p> <p>第3回 : 昔話, 民話の考察1</p> <p>第4回 : 昔話, 民話の考察2</p> <p>第5回 : あまんきみこの作品を起点に</p> <p>第6回 : 茂市久美子の作品を起点に</p> <p>第7回 : 新美南吉の作品を起点に</p> <p>第8回 : アーノルド・ローベルの作品を起点に</p> <p>第9回 : レオ・レオニの作品を起点に</p> <p>第10回 : ジョン・バーニンガムの作品を起点に</p> <p>第11回 : その他の作家 (モンゴメリー・センダック・ミルン・ポター・ヤンソン等) についての考察</p> <p>第12回 : プレゼンテーションNO.1</p> <p>第13回 : プレゼンテーションNO.2</p> <p>第14回 : プレゼンテーションNo.3</p> <p>第15回 : プレゼンテーションNo.4</p> <p>期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | 講義と演習を入れこみながら進めていく。   |      |    |
| 授業外学習 | 児童文学作品や絵本を週5冊をめどに、計40冊を読み、読書ノートを作成していく。   |      |    |
| 教科書   | なし  |      |    |
| 参考書   | 必要に応じて関連プリントを配布する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加貢献度、各取り組みの習得状況 (50%)、試験 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 総合英語 1   |      |    |
| 教員名   | 安井 茂喜 (11E・15E)  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語に親しみ、日本語との違いや発音についての理解を深める。</li> <li>・ 語彙および慣用表現を多く身につける。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 英語を「読む」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語 1」では特に読む能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。学生は長文を読む際に、逐語的訳に陥ってパラグラフ全体の意味の把握ができない傾向にあるので、その悪癖から脱することを目標にして、確固たる基礎力と応用力を兼備した徹底的指導を行う。  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 はじめに<br>第 2 回 自己紹介 (1)<br>第 3 回 自己紹介 (2)<br>第 4 回 職業 (1)<br>第 5 回 職業 (2)<br>第 6 回 食べ物 (1)<br>第 7 回 食べ物 (2)<br>第 8 回 前半のまとめ<br>第 9 回 習慣 (1)<br>第 10 回 習慣 (2)<br>第 11 回 動作 (1)<br>第 12 回 動作 (2)<br>第 13 回 過去の出来事 (1)<br>第 14 回 過去の出来事 (2)<br>第 15 回 後半のまとめ<br>第 16 回 期末テスト |      |    |
| 授業方法  | 発音の特徴を理解するための練習を行う。<br>身近なものごとを表現する語彙をおぼえて使う。<br>英語を使った活動をくり返し行うことをとおして構文を身につける。   |      |    |
| 授業外学習 | 毎回、授業で学習した表現が口をついて出てくるまで練習する。<br>語彙や文の小テストを予告するので、準備学習をする。   |      |    |
| 教科書   | Ken Wilson, SmartChoice Book 1, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011.  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業中の発表 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 総合英語 1   |      |    |
| 教員名   | 竹野内 倫子 (16E・12E) 西谷 継治 (13E・14E)   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語に親しみ、日本語との違いや発音についての理解を深める。</li> <li>・ 語彙および慣用表現を多く身につける。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 英語を「読む」「書く」「話す」能力を養うが、「総合英語 1」では特に読む能力をブラッシュ・アップすることを優先させる。学生は長文を読む際に、逐語的訳に陥ってパラグラフ全体の意味の把握ができない傾向にあるので、その悪癖から脱することを目標にして、確固たる基礎力と応用力を兼備した徹底的指導を行う。  |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回 はじめに<br>第 2 回 自己紹介 (1)<br>第 3 回 自己紹介 (2)<br>第 4 回 個人の情報 (1)<br>第 5 回 個人の情報 (2)<br>第 6 回 持ち物 (1)<br>第 7 回 持ち物 (2)<br>第 8 回 前半のまとめ<br>第 9 回 好きな音楽 (1)<br>第 10 回 好きな音楽 (2)<br>第 11 回 余暇 (1)<br>第 12 回 余暇 (2)<br>第 13 回 能力 (1)<br>第 14 回 能力 (2)<br>第 15 回 後半のまとめ<br>第 16 回 期末テスト |      |    |
| 授業方法  | 発音の特徴を理解するための練習を行う。<br>身近なものごとを表現する語彙をおぼえて使う。<br>英語を使った活動をくり返し行うことをとおして構文を身につける。   |      |    |
| 授業外学習 | 毎回、授業で学習した表現が口をついて出てくるまで練習する。<br>語彙や文の小テストを予告するので、準備学習をする。   |      |    |
| 教科書   | Ken Wilson and Thomas Healy, SmartChoice Starter, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011.  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業中の発表 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 総合英語 2   |      |    |
| 教員名   | 安井 茂喜 (11E・15E)  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語独特の言語ルールや、リズムについての理解を深める。</li> <li>・場面に応じた英語表現をより多く身につける。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>「総合英語 1」で鍛えた力を土台に、更に発展させていく。英文読解力から英語表現力に比重を傾けて、英語表現のコツをつかんで、「読む」能力から「書く」能力のブラッシュ・アップを図る。そのため、自分の日々の生活と関連のある事柄を、まずは短文で、次のステップではまとまった量を自由英作文風を書く機会を数多く与え、個人的添削指導にあたる。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 はじめに<br/> 第2回 買い物 (1)<br/> 第3回 買い物 (2)<br/> 第4回 外観・特徴 (1)<br/> 第5回 外観・特徴 (2)<br/> 第6回 観光地 (1)<br/> 第7回 観光地 (2)<br/> 第8回 前半のまとめ<br/> 第9回 街 (1)<br/> 第10回 街 (2)<br/> 第11回 休暇 (1)<br/> 第12回 休暇 (2)<br/> 第13回 将来 (1)<br/> 第14回 将来 (2)<br/> 第15回 後半のまとめ<br/> 第16回 期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | <p>発音の練習をひきつづき行う。<br/> 朗読などをくり返し行い、英語を使うことに慣れる。<br/> 指示、依頼、案内、意見、感想などを表現する文をおぼえて使う。</p>  |      |    |
| 授業外学習 | <p>毎回、授業で学習した表現が口をついて出てくるまで練習する。<br/> 語彙や文の小テストを予告するので、準備学習をする。</p>  |      |    |
| 教科書   | Ken Wilson, SmartChoice Book 1, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011.  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業中の発表 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 総合英語 2   |      |    |
| 教員名   | 竹野内 倫子 (16E・12E) 西谷 継治 (13E・14E)   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語独特の言語ルールや、リズムについての理解を深める。</li> <li>・場面に応じた英語表現をより多く身につける。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>「総合英語 1」で鍛えた力を土台に、更に発展させていく。英文読解力から英語表現力に比重を傾けて、英語表現のコツをつかんで、「読む」能力から「書く」能力のブラッシュ・アップを図る。そのために、自分の日々の生活と関連のある事柄を、まずは短文で、次のステップではまとまった量を自由英作文風を書く機会を数多く与え、個人的添削指導にあたる。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回 はじめに<br/> 第2回 動作 (1)<br/> 第3回 動作 (2)<br/> 第4回 家にある物 (1)<br/> 第5回 家にある物 (2)<br/> 第6回 街 (1)<br/> 第7回 街 (2)<br/> 第8回 前半のまとめ<br/> 第9回 食べ物 (1)<br/> 第10回 食べ物 (2)<br/> 第11回 過去 (1)<br/> 第12回 過去 (2)<br/> 第13回 余暇 (1)<br/> 第14回 余暇 (2)<br/> 第15回 後半のまとめ<br/> 第16回 期末試験</p> |      |    |
| 授業方法  | <p>発音の練習をひきつづき行う。<br/> 朗読などをくり返し行い、英語を使うことに慣れる。<br/> 身近なものごとを表現する語彙をおぼえて使う。<br/> 英語を使った活動をくり返し行うことをとおして構文を身につける。</p>   |      |    |
| 授業外学習 | <p>毎回、授業で学習した表現が口をついて出てくるまで練習する。<br/> 語彙や文の小テストを予告するので、準備学習をする。</p>  |      |    |
| 教科書   | Ken Wilson and Thomas Healy, SmartChoice Starter, 2nd Edition, Oxford University Press, 2011.  |      |    |
| 参考書   | 適宜紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業中の発表 (30%)、小テスト (20%)、期末試験 (50%)   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | イングリッシュ・アクティビティ1   |      |    |
| 教員名   | 中村 アン 貴代美  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  | 週1回  | 単位数  | 1  |
| 履修年次  | 2  | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <p>Students will be able to participate and lead games, songs and simple activities in English and make presentations relating to vocabulary, stories and culture in English. Students will reflect on the class activities and how adults and children learn English.</p> <p>生徒たちは英語でゲーム、歌、簡単なアクティビティに参加します。そして、生徒たちはクラスでこの同じようなアクティビティを行動します。英語で（単語、お話、文化について）発表（プレゼンテーション）もします。授業のアクティビティと大人と子供が英語を習う方法の違いを熟考えします。</p>  |      |    |
| 授業概要  | <p>Students will experience various classroom activities, followed by a chance to reflect on how they can use the activities as teachers. They will have a chance to build up leadership skills by leading activities in small groups. Students will prepare and present their own original teaching activities in pairs or alone at least twice per semester.</p> <p>色々なアクティビティを経験します。そして、生徒になるとき、このアクティビティをどんなように使うを考えます。小さいグループでアクティビティの指示して、自分のスキルを高めます。学期2回、二人組か一人で考えたオリジナルアクティビティを発表します。</p>   |      |    |
| 授業計画  | <p>Sessions 1 - 2: Ice-breakers; self introductions; sharing our lives and learning experiences (simple show and tell activities).</p> <p>Sessions 3 - 5: English through songs, physical activities and visual aids</p> <p>Sessions 6 - 8: Preparation and student presentations</p> <p>Sessions 9 - 10: Different learning styles; learning with songs and sounds; show and tell; drama activities</p> <p>Sessions 11 - 15: Group projects and presentations, recap and summary</p> <p>1回目～2回目 緊張をほぐすもの (ice breaker activities)、自己紹介 (興味、旅行、教育経験、など)、簡単なショー・アンド・テル (show and tell activity 見せて説明する)</p> <p>3回目～5回目 歌、体を動くアクティビティ、イラストなどの教材で英語を使う</p> <p>6回目～8回目 生徒たちの発表の準備、発表</p> <p>9回目～10回目 色々な学習法、歌や音、ドラマ、show and tell</p> <p>11回目～15回目 グループプロジェクト、発表、まとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | <p>Students will work in pairs or groups and take turns to lead the class in games and activities. Reflecting and talking about their learning experience in English and Japanese.</p> <p>生徒たちは二人組かグループでクラスにゲームかアクティビティを指示します。日本語か英語で感想と述べます。</p>  |      |    |
| 授業外学習 | <p>Students will need to study classroom English using the textbook. They will also need to prepare for their presentations by writing a lesson plan and finding or making any materials they will need (such as picture cards or toys, etc.) for their lesson.</p> <p>教科書で教室英語を勉強します。発表のためにレッスンプランを書いて、適した教材を探しますか自分で作ります。</p>  |      |    |
| 教科書   | <p>英語で学級遊び 30<br/>稲垣 孝章 (いながき たかふみ) 編集</p>   |      |    |
| 参考書   | <p>An electronic dictionary is helpful.<br/>電子辞書があれば、便利です。</p>   |      |    |
| 評価方法  | <p>Students will be evaluated by their presentations (40%), participation (30%), written work (such as lesson plans, etc.) (30%)</p> <p>発表、レッスンプラン、授業に参加する事で評価します。</p>   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|      |   |      |    |
|------|---|------|----|
| 科目名  | イングリッシュ・アクティビティ 2   |      |    |
| 教員名  | 中村 アン 貴代美   |      |    |
| 授業種別 | 週間授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔 | 週 1 回   | 単位数  | 1  |
| 履修年次 | 2   | 学期   | 後期 |
| 到達目標 | <p>Students will be able to plan and lead a sequence of activities or a short lesson around a topic or grammar area. They will get a deeper understanding of how children learn, and be able to make choices about suitable learning activities and materials for a specific class. Through doing presentations, they will start to develop their own style as a teacher.</p> <p>生徒たちは決まった議題について、いくつかのアクティビティか短いレッスンとを考えます。考えたアクティビティかレッスンを生徒の指示にクラスが行動します。子どもの習い方をもっと理解します。適切なアクティビティと教材を選べる事が出来るようになります。発表をしながら、独自の教授法を身につけます。</p>  |      |    |
| 授業概要 | <p>Students will read and study short passages about how children learn, followed by a chance to try out activities related to a particular skill or area of learning, such as teaching reading or verbs. Students will have a chance to think about how activities fit together into a full lesson, and try to teach their peers for a longer period of time. They are asked to think of their own goals and work on a teaching presentation which relates to their area of interest, for example, nursery school, kindergarten or elementary school English. Students will prepare and present their own original teaching activities in pairs or alone twice per semester.</p> <p>子どもの学習に関する記事を読みます。特定の課題を教えるために、試したアクティビティを組み合わせて一つのレッスンを書きます。書いたレッスンを使って、クラスの仲間たちを教えます。自分が自指している幼稚園か小学校の英語に関して、英語のレッスンプランも作ります。学期 2 回、二人組か一人で教えたオリジナルアクティビティを発表します。</p>                      |      |    |
| 授業計画 | <p>Sessions 1 - 3: Self introductions, classroom English review; teaching the ABC (phonics) and the first steps in reading and writing<br/> Sessions 4 -5: Alphabet and phonics, games<br/> Session 6-7: Teaching with skits, songs and stories; Classroom communication, gestures; looking at lesson plans<br/> Sessions 8-9: Students' presentations<br/> Sessions 10-11: Activities based on listening and doing; students' presentations<br/> Sessions 12-13: Story telling activities and skits; looking at lesson plans<br/> Sessions 14-15: Students' presentations</p> <p>1 回目～3 回目：自己紹介、教室英語を復習、アルファベット(ABC)、フォニックス (つづり字と発音の関係を教える教材)、読み方、書き方の教授法<br/> 4 回目～5 回目：アルファベットとフォニックスと関係ゲーム<br/> 6 回目～7 回目：スキット (寸劇)、歌、お話、ジェスチャー(動作) と絵で教室のコミュニケーション法<br/> 8 回目～9 回目：発表<br/> 10 回目～11 回目：リスニング アクティビティ、発表<br/> 12 回目～13 回目：スキットまたはお話 (本読み) の話術、発表<br/> 14 回目～15 回目：発表、まとめ</p> |      |    |
| 授業方法 | <p>Students will work in pairs or groups and take turns to lead the group in games or activities. Reflecting and talking about our learning experiences (in English or Japanese) will be stressed.</p> <p>生徒たちは二人組か一人でクラスにゲームかアクティビティと指示します。日本語か英語で感想</p>   |      |    |

2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |
|-------|---|
|       | を述べます   |
| 授業外学習 | Students will need to study classroom English using the textbook. Students will also need to prepare for their presentations by writing a lesson plan and making or finding any materials they will need such as picture cards or toys.<br>教科書で教室英語を勉強します。発表のために、レッスンプランを書いて、適した教材を探しますか自分でつくります。 |
| 教科書   | 英語で学級遊び 30<br>稲垣 孝章 (いながき たかふみ) 編集  |
| 参考書   | A small dictionary or electronic dictionary is helpfu.<br>小さい辞書か電子辞書があれば、便利です。  |
| 評価方法  | Students will be evaluated by their presentations (40%), participation (30%), written work (such as lesson plans, etc.) (30%)<br>発表、レッスンプラン、授業に参加する事で評価します。   |
| 既修条件  | なし  |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 子ども英語演習 1   |      |    |
| 教員名   | 吹原 顕子   |      |    |
| 授業種別  | 集中授業  | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  |   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校外国語活動の目標を実現するために、目的に応じた活動をすることができる。</li> <li>・単元の指導計画及び学習指導案を作成し、適切な英語と適切な教材を用いて模擬授業を行うことができる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | <p>最初に、小学校外国語活動の5年生の授業をビデオで観察し、授業のイメージをもつ。</p> <p>次に、目的に合わせた指導法を体験的に学んだ後、個人またはグループでHi, friends 1から単元を1つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。それに基づいて単元を通して模擬授業を行う。模擬授業後にはディスカッションを持ち、よりよい授業について考える。</p> <p>最後に、授業実践を通して学んだことをレポートにまとめる。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第01回 小学校外国語活動の目標と授業分析</p> <p>第02回 『Hi, friends! 1』を活用した指導1 聞く活動・機械的に繰り返し言い、音に慣れる活動</p> <p>第03回 『Hi, friends! 1』を活用した指導2 自分のものにする活動・言葉を選んで発話する活動</p> <p>第04回 『Hi, friends! 1』を活用した指導3 指導計画・学習指導案作成、教材準備</p> <p>第05回 模擬授業1 (4時間構成の単元の1時間目: 聞く活動を中心とした授業)</p> <p>第06回 模擬授業2 (4時間構成の単元の1時間目: 聞く活動を中心とした授業)</p> <p>第07回 模擬授業3 (4時間構成の単元の2時間目: 音に慣れる活動を中心とした授業)</p> <p>第08回 模擬授業4 (4時間構成の単元の2時間目: 音に慣れる活動を中心とした授業)</p> <p>第09回 模擬授業5 (4時間構成の単元の3時間目: 自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第10回 模擬授業6 (4時間構成の単元の3時間目: 自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第11回 模擬授業7 (4時間構成の単元の3時間目: 自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第12回 模擬授業8<br/>(4時間構成の単元の4時間目: 言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第13回 模擬授業9<br/>(4時間構成の単元の4時間目: 言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第14回 模擬授業10<br/>(4時間構成の単元の4時間目: 言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第15回 総括</p> |      |    |
| 授業方法  | 演習。1単元4時間の模擬授業を通して実践的に外国語活動の指導法を学ぶ。   |      |    |
| 授業外学習 | 予習として『Hi, friends! 1』を事前に読んでおく。最初の授業で選択した単元について、文部科学省がWeb上で示している学習指導案の例、配付資料等を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。指導者として担当した模擬授業、また児童として受けた模擬授業についてレポートを書く。   |      |    |
| 教科書   | <p>(1) 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』文部科学省, 2008年</p> <p>(2) 『Hi, friends! 1』文部科学省, 2012年</p> <p>(3) プリント。教室で配付する。</p>  |      |    |
| 参考書   | 授業で紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業への取り組み 20%、模擬授業 60% (授業 20%、授業準備 10%、教室英語 10%、模擬授業後のディスカッションへの参加 20%)、学習指導案・レポート 20%  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 子ども英語演習 2  |      |    |
| 教員名   | 吹原 顕子  |      |    |
| 授業種別  | 集中授業   | 授業形態 | 演習 |
| 開講間隔  |  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の指導計画及び学習指導案を作成し、適切な英語と適切な教材を用いて模擬授業を行うことができる。</li> <li>電子黒板、プレゼンテーションソフト等を使って作成した教材などを用いて指導をすることができる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>外国語活動の目標については子ども英語演習 1 で学んでいる。子ども英語演習 2 では、今後小学校に文字指導が入ってくる可能性があることから、文字指導を例にとり児童の発達段階に配慮しながら目的に応じて指導する方法を学び、指導スキルの向上を図る。アルファベットの発音も確認する。</p> <p>次に、個人またはグループで Hi, friends 2 から単元を 1 つ選び、到達目標から逆向きに授業を計画する。プレゼンテーションソフト等を用いて授業で使用する教材を作成し、学習指導案に基づき模擬授業を行う。それぞれの模擬授業後にディスカッション</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第 01 回 小学校における文字指導 1 言語や文化についての気づき、目的に応じた活動</p> <p>第 02 回 小学校における文字指導 2 使用表現を用いた活動、文字の形を意識する活動</p> <p>第 03 回 『Hi, friends! 2』を活用した指導 1 指導計画・学習指導案作成</p> <p>第 04 回 『Hi, friends! 2』を活用した指導 2<br/>プレゼンテーションソフト等を使った教材作成</p> <p>第 05 回 模擬授業 1 (4 時間構成の単元の 1 時間目：聞く活動を中心とした授業)</p> <p>第 06 回 模擬授業 2 (4 時間構成の単元の 1 時間目：聞く活動を中心とした授業)</p> <p>第 07 回 模擬授業 3 (4 時間構成の単元の 2 時間目：音に慣れる活動を中心とした授業)</p> <p>第 08 回 模擬授業 4 (4 時間構成の単元の 2 時間目：音に慣れる活動を中心とした授業)</p> <p>第 09 回 模擬授業 5 (4 時間構成の単元の 3 時間目：自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第 10 回 模擬授業 6 (4 時間構成の単元の 3 時間目：自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第 11 回 模擬授業 7 (4 時間構成の単元の 3 時間目：自分のものにする活動を中心とした授業)</p> <p>第 12 回 模擬授業 8<br/>(4 時間構成の単元の 4 時間目：言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第 13 回 模擬授業 9<br/>(4 時間構成の単元の 4 時間目：言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第 14 回 模擬授業 10<br/>(4 時間構成の単元の 4 時間目：言葉を選んで発話する活動を中心とした授業)</p> <p>第 15 回 総括</p> |      |    |
| 授業方法  | 演習。1 単元 4 時間の模擬授業を通して実践的に外国語活動の指導法を学ぶ。   |      |    |
| 授業外学習 | 予習として『Hi, friends! 2』を事前に読んでおく。最初の授業で選択した単元について、文部科学省が Web 上で示している学習指導案の例を参考にして指導計画・学習指導案を作成し、教材を準備する。指導者として担当した模擬授業、また児童として受けた模擬授業についてレポートを書く。  |      |    |
| 教科書   | <p>(1) 『小学校学習指導要領 外国語活動編』文部科学省、2008 年</p> <p>(2) 『Hi, friends! 2』文部科学省、2012 年</p> <p>(3) プリント。教室で配付する。</p>   |      |    |
| 参考書   | 授業で紹介する。   |      |    |
| 評価方法  | 授業への取り組み 20%、模擬授業 60% (授業 20%、授業準備 10%、教室英語 10%、模擬授業後のディスカッションへの参加 20%)、学習指導案・レポート 20%   |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 異文化間理解論 (B13 生) / 異文化間教育論 (B10～B12 生)   |      |    |
| 教員名   | 植野 雄司   |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 2   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化間理解に関する基礎的知識が修得できている。</li> <li>・現代の北米社会の状況について、異文化間関係学の観点から説明できる。</li> </ul>   |      |    |
| 授業概要  | <p>カナダは、言語だけでなく歴史や文化においても、イギリス・アメリカ両国との関係が深く、その文化を知ることは、英語を学ぶ者にとっても興味深い。この授業では、カナダ研究のための入門的な知識を得るだけでなく、さまざまな具体例をもとに、異文化間の理解とはどのようなものか、また、そこにどのような問題があるのかについて考え、文化と文化の間に注目することの重要性について学ぶ。</p>  |      |    |
| 授業計画  | <p>第1回：文化とは何かを考える<br/> 第2回：異文化間関係学の視点<br/> 第3回：カナダについての概説（歴史と社会）<br/> 第4回：カナダの国民性<br/> 第5回：カナダの文化に関する異文化間的問題の検討<br/> 第6回：異文化の理解・受容・排除についての研究<br/> 第7回：多文化社会の事例（現在の状況）<br/> 第8回：多文化社会の事例（問題の検討）<br/> 第9回：多文化社会の事例（展望）<br/> 第10回：異言語をめぐる課題と研究<br/> 第11回：異文化理解の実際<br/> 第12回：異文化理解の方法<br/> 第13回：異文化理解の歴史<br/> 第14回：異文化間理解における問題と可能性<br/> 第15回：まとめ</p> |      |    |
| 授業方法  | ビデオなどの資料を用いながら、対話的に授業を進める。  |      |    |
| 授業外学習 | 毎授業で学んだ知識を整理し、それについての考察を各自ノートにまとめておくこと。また、小論文作成のために各自のテーマに合った文献資料を収集し、その内容を整理しておくこと。  |      |    |
| 教科書   | なし  |      |    |
| 参考書   | 適宜授業で紹介する。  |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度（30％）と学期末に提示される課題の提出物（70％）を総合して評価する。授業への参加度については、教員からの質問等に応じた回答や、討論での発言が、積極的かつ的確であることを高く評価する。  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |  |      |    |
|-------|--|------|----|
| 科目名   | 国際社会論  |      |    |
| 教員名   | 亀井 慶二  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業   | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回  | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 1  | 学期   | 後期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・英国、米国を中心として、20 世紀から 21 世紀初頭にかけての国際社会で起きた主要な出来事について、異文化理解の観点をもとに理解できるようになる。</li> <li>・現代社会の出来事と、過去の国際社会で起きた出来事との関連性が理解できるようになる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | 今日の国際社会で起きている出来事は、これまでの国際社会で生じた様々な出来事の影響を受けて生起している。この授業では、20 世紀から 21 世紀にかけて国際社会に生じた主要な出来事、中でも特に英国、米国に焦点を当てて、事実の確認をするとともに、現在の英米を中心とする国際社会の状況との関連性についても異文化理解の観点から考察する。   |      |    |
| 授業計画  | 第 1 回：授業への導入－授業内容・進め方についての紹介<br>第 2 回：欧米を軸とする現在の国際社会について<br>第 3 回：世界の工場としての英国<br>第 4 回：ビクトリア女王の時代<br>第 5 回：ジョージ 5 世対ウィルヘルム 2 世<br>第 6 回：米国に集中する資本と大恐慌の発生<br>第 7 回：ルーズベルト大統領とチャーチル首相<br>第 8 回：前半の授業の振り返り<br>第 9 回：英米を中心とする連合国対枢軸国の争い<br>第 10 回：インド・ミャンマー等植民地の独立<br>第 11 回：米国とソビエト連邦の対立<br>第 12 回：英米と中東地域との関わり<br>第 13 回：東西体制の崩壊<br>第 14 回：変容する国際安全保障体制<br>第 15 回：全体のまとめ |      |    |
| 授業方法  | 講義、及び関連教材視聴の形式で進める。確認のためのクイズや試験も実施する。また、持ち帰り課題も実施する。   |      |    |
| 授業外学習 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時に実施するまとめクイズの復習をする。</li> <li>・授業時に出された課題を完成させて翌週に提出する。</li> <li>・各授業のテーマについて前もって予習しておく。</li> </ul>   |      |    |
| 教科書   | 特に指定しません。  |      |    |
| 参考書   | 中学や高校で使用した地理、歴史の教科書や参考書があれば有益です。   |      |    |
| 評価方法  | 授業への参加度、及び課題の達成度等 (50%)、クイズ及び試験 (50%)  |      |    |
| 既修条件  | なし   |      |    |

## 2015 年度 子ども教育学科 教職課程科目シラバス

|       |   |      |    |
|-------|---|------|----|
| 科目名   | 国際理解教育  |      |    |
| 教員名   | 岡 憲司  |      |    |
| 授業種別  | 週間授業  | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔  | 週 1 回   | 単位数  | 2  |
| 履修年次  | 3   | 学期   | 前期 |
| 到達目標  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコによる国際理解教育の重点項目につき、理解を深め説明できる。</li> <li>・時代の流れの中で重視されるようになった項目につき、理解を深め説明できる。</li> <li>・国際理解・国際協力に貢献した日本人につき、理解を深め説明できる。</li> </ul>  |      |    |
| 授業概要  | ユネスコ中心に始まった国際理解教育の目標・方法などを原点として解説する。その際、人権教育と異文化間理解教育にスポットライトをあてる。国際理解教育は内容をより豊かにしており、その発展過程についても解説する。国際理解教育について、自分自身の言葉で、具体的に語れるようになることを目的として指導する。   |      |    |
| 授業計画  | 第1回 ユネスコの成立と国際理解教育<br>第2回 人為的につくられる差別<br>第3回 国際理解教育の柱としての人権教育<br>第4回 地雷除去と平和教育<br>第5回 少年兵問題と平和教育<br>第6回 世界寺子屋運動と海外教育支援<br>第7回 人種差別との戦い<br>第8回 国際理解教育の柱としての異文化間理解教育<br>第9回 世界遺産の修復と異文化理解<br>第10回 身近な異文化の理解<br>第11回 文化的相対主義<br>第12回 フェア・トレードと開発教育<br>第13回 誇れる日本人 1<br>第14回 誇れる日本人 2<br>第15回 出題傾向のまとめと授業内テスト |      |    |
| 授業方法  | 講義形式とする   |      |    |
| 授業外学習 | 授業後に次回に向けての読書、およびレポート課題を課す  |      |    |
| 教科書   | 随時、資料を配布する  |      |    |
| 参考書   | 授業中に適宜紹介する  |      |    |
| 評価方法  | 授業内テスト 40%、授業中に提出するレポート 30%、授業への参加度 30%(教員からの質問等に<br>応じて的確に回答するなど、積極的な発言などを評価)  |      |    |
| 既修条件  | なし  |      |    |